

## 抄 録

## 結核専門雜誌

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 73. H. 2, 1935.

## 早期浸潤ノ前時期及経過ノ觀察

Th. Rehberg: Beobachtung über Vorstadium und Verlauf des Frhthinfiltrates.

早期浸潤ノ成立ニ就イテハ十分明カニサレテヲラス。著者ハ偶然ノ機會ニ2例ヲ觀察シ得タノヲ報告シテラル。第1例ハ入院時右側肺門部及中野ニ網狀、索狀ノ陰影ヲ示セルモノガ、約5週間後「レ」線撮影ノ結果テハ右上野及下野ニ柔カナ圓形陰影ヲ見タ。然カモ下野ノ浸潤ハ直徑約1.8cm. 其上ニモ小ナル輪狀陰影ヲ認メタ。第2例ハ初メ右肺門部ニ結節狀陰影ヲ認メタモノガ約6週後ニ左肺ノ中野ニ中心ニ鶏卵大ノ空洞ヲ有シ、中及下野ニ向ツテ播種ヲ持ツタ新シイ融解セル早期浸潤ヲ證明シタ。兩例ニ於テ早期浸潤及融解ハ比較的短期間ニ起リ、其間自覺的ニモ他覺的ニモ把握スベキ症狀ハ認メ得ナカツタ。而カシテ人工氣胸ニヨツテ兩例共ニ速カニ治癒ヲ示シタ。早期浸潤ノ前時期ノ症狀ハ多クノ人一依ツテ述べラレテ居ルガ著者ノ見解ハ是ト全ク一致シテヲラス。即チ早期浸潤ハ速カニ症狀ニ乏シク現ハレルモノデ、其前ノ症狀ニハ把握スベキモノガナイ。兩例ニ於テ血液検査ノ結果テハ高度ノ感作ヲ示シテ居ツタ事ハ明カデアアルガ、コノ感作ハ強度ノ重感染ニヨリ破ラレ速カニ浸潤及融解ヲ起シタモノデアアリ、又速カニ治癒セルハ Allergie ノ増進ヲ以テ説明スベキデアアラウト云ツテ居ル。

(刀根山柳澤抄)

初メ效果アリシ人工氣胸療法ノ失敗ニ對スル剝離セザリシ肋膜索條ノ意義

Otto Jüttemann: Die Bedeutung nicht gelöster Pleurastränge für das Fehlschlagen der ursprünglichen Pneumothoraxbehandlung.

著者ハ人工氣胸療法ニ依ツテ完全ナル氣胸ニ成功スル例ハ經驗上極メテ僅少ナルコトヲ1—2ノ統計ヲ舉

ゲテ示レ之ハ全ク肋膜癒著ニ依ルモノナル事及ビ之ニ對シテ Thorakoskopie 及ビThorakokaustikノ應用ガ年々顯感セラル、様ニ爲ツタ、様々ノ肋膜索條ヲ有スル患者テ Kaustikヲ行ハズ單ニ人工氣胸療法ノミニ依ツテ、菌ノ消失赤沈ノ正常値ヲ示シ一般狀態モ良好ト爲リ氣胸ノ效果顯著ナリシモノガ氣胸療法終了後再ビ悪化セル5例ニ就テ詳細ナル觀察ヲ行ヒ、之ガ原因トシテ Kaustikヲ怠リタル爲ナリトシ斯ル見掛ケ上ノ效果ヲ來セル Mechanismusヲ詳論シ從來カ、ル索條ニ對スル吟味ノ足ラザル事ヲ指摘シテ居ル。

著者ハ一度成立シタル索條ガ肺臟ニ及ボス機械的力學的作用ヲ人工氣胸實施ニ當ツテハ次ノ様ナ3ツノPhaseニ於テ考慮スル事ガ最モ大切デアアルト述べテ居ル。即チ1)氣胸ヲ起シタ時、2)氣胸ヲ中絶シタ時、3)完全ニ氣胸療法ヲ終了シタ後、後著者ハ前記5例ノ各々ニ就イテ其索條ノ吟味ヲ詳細ニ説明シタル後彼ノ Maurer氏ノ舉ゲタル Kaustikノ Indicationトシテ單ニ菌ノ陽性ト空洞ノ證明ノミテハ尙不充分ナリトシ其索條ノ位置形硬度及ビ之ニ依リテ起ル肺臟ノ變形ノ程度等ヲ充分ニ各個人ニ就イテ考察シ必要ナル場合ハ躊躇ナク Kaustikヲ行ヒテ氣胸療法ノ效果ヲ永久ノナラシムベキ事ヲ強張シテ居ル。

(刀根山西村抄)

## 融解セル浸潤ト誤ラレタル先天性肺囊腫

H. Brauening: Angeborene Lungencyste, einschmelzendes Infiltrat vortäuschend.

著者ハ18歳ノ女子ノ先天性肺囊腫ト考ヘラル、1例ヲ報告シテラル。夫レハ著者ノ患者ノ3歳ノ時ヨリ今日ニ至ル迄長イ期間ニ亙リ、時々「レントゲン」撮影ヲ爲シ決定シ得タモノデ、左鎖骨下ニ1「マルク」大ノ境界鮮明ナル像ヲ示スモノデ、時ニハ液體ヲ以テ充サレ、時ニハ空虛ノ像ヲ示スモノデアアル。唯1回ノ觀察

テハ恐ラク結核性ノ浸潤又ハ空洞ト誤マレルデアラウ。  
(刀根山柳澤抄)

### 結核療養所患者ノ作業

Th. Peters: Zur Frage der Beschäftigung der Patienten in der Volksheilstätte.

労働ニ慣レタ人が安静ノ爲ニ何モシナイテ居ル事ハ精神的ニ苦痛ナル。斯ル患者が安静時以外ニ作業ヲスルノハ甚ダ價値アル事ナル。慢性疾患、殊ニ結核テ長イ間療養ヲシテオル者ハ、性格ガ甚ダシク變ツテ、自己主義トナリ、非社会的ナ人間トナツテ居ル者ガ多イ。斯ル場合其ノ、個人個人ニ適當ナ仕事ヲ考慮ニ入レテ、面倒ヲ見テアル事ハ非常ニ價値アル事ナル。大體國民結核療養所ノ患者ノ性格ハ、憂鬱テ、不氣嫌テ、敵對主義ナ者ガ多ク、從テ患者同志ノ間ニ争ヲ生ジ、或ハ醫師、看護婦等ト良ク争ヒ、治療上非常ニ困難ナル。此ノ間違ツタ精神ハ、今日普通ノ安静療法テハ救ハレナイ。事實我々ハ斯ル場合患者ニ適シタ仕事ヲアタフルト、患者ノ精神ハ非常ニ向上シ、患者間ノ争ヒ、醫師、看護婦等ト衝突モ非常ニ少クナツタ。サレバ如何ナル方法テ作業療法ヲ行フベキカ。先ヅ第一婦人患者ノ場合ナル。元來婦人ハ消極的ナモノナルカラ、何モシナイタル事ガ餘リ苦痛デアナイラシイ。婦人療養所ニ於ケル患者ノ不氣嫌ハ大抵感情ニ原因ノアル場合ガ多イ。喩バ、望郷病ヤ、子供、夫、両親等カラ、別レテオル苦痛ガ主トシタ原因ナル。ダカラ醫師ガ心ヨリ親切ナル言葉ヲカケテアルト容易ニ精神的ニ良クナルモノナル。然シ作業療法ガ全く不必要ダト云フノデハナイ。靴下ヲ作ツタリ、刺繡ヲシタリ、裁縫ヲシタリ、一般婦人デアレバ誰アモ出來ル様ナ仕事ガ良イ。次ニ男子ノ場合ハ、患者ガ餘リ肉體的ニ努力シナクテモ、良ク天賦ノ能力ヲ利用テキルモノテ、其ノ仕事ガ上手ニ出來テ、患者ガ満足スルモノ、即精神的療法カラ云ツテモ利益アルモノガ良イ。療養所附屬ノ農園、公園等テ働クノモ良ク考ヘネバナラス。ト云フノハ、是等ノ仕事ハ天候、季節ニ依テ左右セラレ、又醫師カラ見テモ斯ル仕事ヲドノ患者ニモ容易ニ許スラケニハイカナイ。又作業シテオル患者ガ「自分ハ利用サレテオルノデアル」ト云フ間違ツタ考ヲ持ツ事ガアル。此ノ作業療法ノ問題解決ニハ、經濟的方面、精神的方面ヨリ考ヘテ、公衆労働場ト云フモノヲ推選シタイ。即公衆労働所テハ大工ノ仕事、彫刻、旋盤、紙細工、硝子細工、畫工等ノ道具ガアツテ、療

養所テ使用スル花籠、輾線、食卓、机、本棚等ヤ、又療養所テ使用シナイ玩具類ヲ作ル。作業場ハ日光ノ良クアタル、通風ノ良イ暖イ部屋テ、水道、旋盤、大工道具等ヲ備ル。仕事ノ管理人ヲオキ、管理人ハ患者ニ仕事ヲ指導シ、監督スル。作業ノ許可ハ醫師ガ行フ。作業ヲ行ハスニ先ダツテ、作業療法ハ決シテ今日行ハレテオル安静療法ニ抵触スルモノアナイト云フ事ヲ良ク患者ニ了解シテオカネバナラス。然シテ如何程長時間作業ガ出作ルカハ問題テナク、患者ガ規則的ニ作業ガ出來ルカ否カガ問題ナル。今日迄ノ經驗ニヨルト作業時間ハ午後 1—2 時ノ間ガ良イ。午前中ハ散歩ノ時間ナル。作業場テ作ラレタ物ハ出來ルダケ療養所テ利用スベキナル。療養所テ利用サレナイ物ヲ處理スルニ、一番良イ方法ハ患者ニ喜ンテ作ツタモノヲ社會事業團ニ寄付セシムル事ナル。之レニ依テ患者ニ何等不當ナ損害ヲアタヘタト云フ考ヲオコサセル事ナク、却テ精神療法の作業ノ目的ヲ良ク認識サセ、又患者自身が國家ノ一員トミテ、援助者デアルト云フ考ヲ益々多クモタシムルベキナル。最後ニ一言シテオクベキハ、患者ノ精神状態ハ非常ニ複雑ナルカラ、此ノ作業療法ノ問題モ簡單ニ解決スベキモノデハナイ。監督者ノ人格ヨリナル活キタ力ニ基礎ヲ置クベキナル。  
(刀根山早川抄)

### 醸氣性乳桿菌ニヨル混合感染セル氣腫胸

J. Alföldy: Mischinfizierte Pneumothorax-Empyeme durch Bacillus lactis aerogenes

結核ニ混合感染セル氣腫胸ノ場合ノ多クハ穿刺、提舉排除瘻管、肋骨切除術ニヨリ一時輕快スルガ治療ノ目的ヲ達スルハ全胸廓成形術ノ後ナル。

著者ハ結核性特發性氣胸ニ 3 例ノ醸氣性乳桿菌ニ混合感染セル膿胸ヲ得タ。是等ノ例ハ特別ニ良性經過ヲトツテ切除瘻ハ自然治癒シ胸廓成形術ヲシナクトモ元ノ結核過程モ同時ニ速ニ然モ永久的ノ治療ヲ示シタ。醸氣性乳桿菌ハ膿胸ノ混合感染因子トミテハ未ダ記載ガナイ。是等ノ性質及經過ハ球菌感染ニ對シテ或ル特異性及ビ差異ガアリ然モ球菌感染ハ胸廓成形術ナクシテ治癒スルノハ非常ニ稀ナル。ガ是等ハ多クハ良好ナ治癒傾向ヲモツテキル。醸氣性乳桿菌感染ハ閉鎖性排瘻管、洗滌、穿刺テハ治癒セズ重イ中毒状態、瓦斯發生ヲ來シ肋骨切除術ヲ必要トスルガソノ後ハ結核性空洞及結核感染セル肋膜腔ハ著シク速ニ滑ニ治癒スル。著者ノ第一例ハ空洞ガ一ケ年半アリ、ソレ

が破レテ特發性氣胸ヲ起シ何等治療傾向ヲ示サナカ  
ツタモノガソノ後起ツタ混合感染ニヨリ酸氣性乳桿  
菌膿瘍ニ變化シ、ソレカ破壊サレ溶解サレ比較的短時  
日ニ薄イ痕痕ヲ殘シテ治療シタ。第 2 例モ比較的ニ短  
時日ニ治療シ第 3 例モ兎モ角良好ナ結果ヲ得タ。

著者ノ觀察シタ 3 例ハ結核ノ原病ニ良イ意味ニ影響  
シタ様テアル。酸氣性乳桿菌ハ「グラム」陰性ヲ容易ニ  
「ミルク」、水、乳兒ノ腸炎ノ便カラ分離シ得ル。又敗  
血症性狀態、膿血症、膽囊著膿症、瘰癧ノ場合ニ證明  
サレル。結核患者ノ腸管内ニ屢ニ證明サレ、上氣道ニ  
達シ、コ、カラ肺ノ空洞ニ移行シタ雜菌トシテ長ク止  
リ空洞破壊後ニ肋膜腔ニ感染シ得ル。酸氣性乳桿菌ノ  
體內毒ト結核トノ關係ニツイテハ著者ハ更ニ研究ニ  
著手シテキル。細菌學的ニハ酸氣性乳桿菌ハ Haranghy  
ニヨレバ腸管内ニ於テハ異常ノ「ボルフィリン」形成ノ

狀態(赤痢様ノ場合)ニアツテ、ソレハ多クノ個體ヲ大  
腸及石英燈光線ニ對シテ致命的過敏性ニ導ク。腸炎ノ  
狀態ニアル結核患者ハ屢ニ腸管内ニ此ノ菌ヲ宿シテ  
キル。故ニ同様ニ太陽又ハ石英燈光線ニ禁忌テアル感  
作セラレタル「ボルフィリン」形成狀態ニオカレテキル  
乳菌及 Bacillus cloacal トヘ生物學的性質カラ分離  
シ得ラレル。酸氣性乳桿菌ト Bac cloacal トハ完全  
ニ分離シ得ルガコノ二種ノ菌種ハトニカク非常ニ近  
イ關係ニアツテ是等ニヨリ起サレル症狀モ亦多分ニ  
近似ノ點ガアル。

以上ヲ總括スレバ酸氣性乳桿菌ニヨリ混合感染セ  
ル結核性膿胸ハ球菌感染ニ反シ良好ナ経過ヲトル様  
テアル。カ、ル菌ノ混合感染ノ實際ニハ全胸廓成形  
術ノ指示ヲ一應考慮スベキテアル。

(刀根山、青野抄)

### Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 73. H. 3, 1935

結核環境ニアル小兒ノ狀況ニ就テノ諮問成績

Ernst Seiffert: Ergebnisse einer Umfrage über die  
Verhältnisse bei Kindern aus tuberkulöser Umwelt.  
検査材料ハ 3 回ニワタル結核相談所ヨリノ回答ヲ纏  
メタルモノテ 2302 例テアル。

結核環境トハ菌所見陽性ニシテ傳染源ヲ明カニナシ  
得タル場合ノミヲ採用シテハ事實上傳染源トシテノ  
働キヲナシテオール一部ハ見落サレル。故ニ著者ハ菌所  
見ノ不明ハ陰性ナリシモノモ臨牀上開放性結核ト  
認メラル、モノハ一緒ニ勘定ニ入レ、シカシテ後ニ等  
ハ特ニ觀察ヲナシタ。

都會ト田舎ニ於ケル成績ノ差ハ認メラレナイ。ソノ理  
由ハ今日尙 100%ノ早期發見ガ困難ナルガタメニ少々  
ノ差異ハ抹消サレルカラテアラウ。

年齡的ニハ Letalität (結核患者中ノ死亡率)モ Mor-  
tality (全數中ノ死亡率)モ 1 歳ニハ遙カニ多ク、3 歳  
迄ニ急ニ減少スル。Letalität 中 1 歳 71.7%、2 歳  
17.1%、3 歳 11.1%、4—5 歳 0%。死亡原因ノ最多  
數ハ粟粒結核テアル。

傳染源ヲ見ルニ親カラガ最モ多ク、ソノ中病父ハ病母  
ニ比シ遙カニ大テアル(55.7% : 30.1%)。兩親共ノ結  
核ハ少數ナルヲ以テ統計的ニ正確テナカツタ。

衛生的保護ノ完全ニ施行サレテキル小兒ハ然ラザル  
モノニ比シ罹患率ハ  $\frac{1}{2}$  ニシテ、Mortality ハ更ニ良好  
ニシテ  $\frac{1}{3}$  アアル。但 Letalität ガ保護兒童ニモ相當多

キハ小兒ノ結核ガ絶對的死亡ニ終ル粟粒結核ナル事  
多キガ爲メテアル。

傳染曝露ノ期間ハ罹患數ニハ明カナ影響ヲ見ナイガ、  
ソノ長期ニナルト共ニ經過ハ重症トナル。コレハ  
Mortality 及 Letality ノ増加ニヨリテ示サル、所テ  
アル。

強感染ハ長期曝露ヨリモ不良テアル。患者數モ増加シ  
テキル。感染ノ強弱ハ結核菌ノ多少、或ハ同時ニ臨牀  
的ニ重症ノ程度殊ニ水泡音ノ多少ヲ以テ決定シタ。  
Mortality 及ビ Letality ノ最モ高キハ保護不完全ナル  
兒童ニシテ強感染ヲ受ケタルモノテアル。衛生的保護  
ノ完不完ハ傳染ニ接スル事ノ多キヤ否ヤ、之ニヨリ  
テ起ル病像ノ輕重ニヨリテ決定サレル。

結核環境ニアル乳兒ニシテ保護ヲ受ケタルモノ、死  
亡數ハ 6.3%ニシテ乳兒結核ノ全國死亡數平均 10.7  
%ニ比シ遙カニ低イ。

適切ニ施行サレテキル相談所ニヨリ小兒ノ結核死亡  
率ハ著明ニ減少セシメ得ル。故ニ相談所ハ更ニ合理的  
ニ亦更ニ擴充サルベキテアル。

豫防接種ハ從來良好ナ成績ヲ證明サレテキナイ。ソノ  
成績ハ非衛生的狀況ニアル小兒ニ於テノミ決定サレ  
得ベキモノテアル。

死亡原因ハ大多數粟粒結核或ハ膿膜炎テアル。「ツペ  
ルクリン」反應陰性者ニハ肺結核ニテ死亡セルモノハ  
皆無テアル。興味アルハ長イ間「ツペルクリン」陰性ノ

モノ、數が比較的多い事アル。遺傳生物學的立場カラ觀察スル人ハ結構觀カラヨリ僅サレ鼻ク遺傳サルルノミナラズ、抵抗力モヨリ強ク遺傳サル、ト見ホバナラヌ。何トナレバコノ抵抗力ハ感染ニヨル自然接種豫防ニヨルノテハナイカラアル。感染ニヨル抵抗ハ「ツベルクリン」陽性ニ於テノミ考ヘラレル。感染ノ危險ガ非常ニ大テアリ、又不良ナ狀況ノ下ニアルニ拘ラズ兒童ガ感染及罹患カラ免カレテキルノハ如斯自然抵抗ニヨルト解釋セホバナラヌ。

コノ抵抗力ハ襲撃的ナ感染ニヨリテ破ラレル。故ニ死ヲ來ス病型ハ粟粒結核テアル。(刀根山、松村抄)

#### 部分的喘息?

#### H. Braeuning: Partielles Asthma?

著者ノ例ハ結核専門醫ニヨリテ肺結核ト診斷サレ、「X」線像ニ於テモ家族歴ニ於テモ結核ヲ疑ハシメタルモ、事實ハ結核ニ非ズシテ部分的喘息トモ稱スベキ例テアル。

患者ハ43歳女、父ノ兄弟3人ハ結核ニテ死亡、父ハ非常ニ神經質、ソノ男ノ子ハ偏頭痛、女ノ子ハ偏頭痛及ビ血管運動神經障礙アリ。家族ニ喘息患者ナシ。患者ハ精神病ニ近キ程度ニ精神興奮アリ。幼時ヨリ屢ク卒倒スル事アリ、殊ニ昨年來甚ダシク、亦上下肢ノ麻痺モ起ル事アリト云フ。2年來感冒アリ、1ヶ月前ヨリ痙攣性咳嗽ガ殊ニ夜間甚ダシイ。但喘息發作ハナシトイフ。

所見ハ左肺上部ニ打診音微弱、呼吸音不純アルノミ。「X」線像ハ25/VII 1934、右側肺炎ニ淡キ雲狀陰翳、左側側部第四肋間迄ノ雲狀陰翳アリ。コノ陰翳ハ肺門ニ至ル纖細ナ索條物、中心部透明ナル環狀物、寧ロ同質性ナル斑紋ヨリナツテアル。Eosinophile ハ27%テアル。Felsol 投與ニヨリ自覺症治癒シ、「X」線像モ陰翳消失ス。

16/VIII 發作起リ、「X」線像ハ右側第二肋骨迄前同ヨリモ強キ濃陰翳ヲ生ジ殊ニ第一肋間ニハ $3 \times \frac{1}{2}$ cm 同質性陰翳著明ナリ。左側ハ1—5 肋骨間ニ稍ク朦朧ナル斑點アリ、但前回ノ如ク強カラズ。Felsol 及「カルチウム」投與ニヨリ陰翳ハ自覺症トモニ直チニ消失ス。即チ該患者ハ自覺症及「X」線陰翳ハ Felsol ニヨリ直チニ消失シ、之ヲ中止スレバ再發シ、再ビ投與スレバ直チニ治癒スル。又 Eosinophile ノ増加アルヲ以テ見レバ喘息ナリト考ヘ得ル。

該例ニ特有ナルハ「X」線像ニ於テ一般喘息ニ於ケル

肺膨脹像ト相違スル點テアル。即チ喘息ハ部分的ニ起ツタモノテアツテ、然モ第1回ハ左側上部ニ、第2回ハ寧ロ右側上部ニ著明テアル。故ニ肺全體ニワタリテ起ツタモノテナイ。從テ橫膈膜ハ低下シテキナイ。コレガタノ呼吸困難モ刺激性咳嗽ノ程度ニ止マルノテアル。

即チ肺内ノ Quinckesches Ödem ト考ヘ得ル。偏頭痛及ビ其他ノ血管神經症モ之ト一致スル。

喘息ニ於テ滲潤陰翳ヲ認メタル記載ハ2、3アルガ、治療ニヨリ消失シ、治療ヲ中止スレバ再發シタ例ハ未ダ報告サレテキナイ。(刀根山、松村抄)

1922年ヨリ1927年ニ至ル Ruppertsbain 療養所ニ於ケル人工氣胸療法ノ持續的效果ニ就キテノ報告

S. Hönich: Bericht über Dauererfolge der Pneumothoraxtherapie in der Heilstätte Ruppertsbain für die Jahre 1922—1927.

1922年—1928年間 Ruppertsbain ニ於テ一割氣胸ヲ施行シタル肺結核患者ハ126名ニシテソノ中男子61、女子64、持續效果ヲ見ルタメ同合セテ發シタガ同答ナキモノ16、肺ノ割離不充分ニシテ施行ヲ2回位テ中止シタルモノ9、施行ハ成功セルモ特別ナル理由ナシニ中途ニテ中止シタルモノ3例ニシテ結局調査シ得タルモノハ100例テアル。男子46例、女子54例テアル。治療ヲ加ヘタ平均年齢ハ男子23歳、女子26歳テアル。職業別ニハ男子中29人ハ牧養アリ、6人ハ牧養ナキ勞動者、9人職工、商人、教員、2人無職、女子中21人家婦、14人ハ多分勞動者ノ妻、女工10人、ソノ他8人ハ裁縫等ノ手藝ニ從フモノテアル。總計ニ就キ治療ノ持續的效果ヲ分類スルト良效果ハ36%、部分的效果ハ8%、效果ナキハ16%、死亡セシモノ40%テアル。死亡ハ38人テ肺病テアル。尙生存中ナルモ效果ハ認め難キモノ16人中8人ハ Turban-Gerhardt ノ二期、三期ニ屬シ、殆シド全テガ開放性結核テアル。ソノ中2例ニ就テハ氣胸ガ初患側ニ與ヘタ抑制的影響ハ極メテ小テアル事ハ疑ヒナキニ拘ラズ反側ニ進行性病變ヲ來シタモノテ特ニ注目スベキモノトシテ詳述シテアル。

部分的良效果ナルモノ8例アリ、持續的治癒ヲ期待シウル迄ニ事實上輕快シタルモノカ或ハコノ效果ガ氣胸ノミニ歸スベキカ否カ明カテナイモノヲ部分的效果ト稱スル。故ニ治癒ト稱スベキ例ト關聯シテ述ベル

コトが出来ル。

治療シタト稱シ得ル 36 例中 29 例が喀痰及ビ菌が消失シ、6 例ハ菌ハナイが時々粘液様ノ喀痰ヲ排泄スル。Turban-Gerhardt 氏ノ分類ニ從ヘバ氣胸施行者中初期カ 6 例、二期カ 24 例、三期カ 6 例テアル。コノ群ノ多クノ患者ハ増殖性乃至ハ増殖性硬化性結核テアツタケレドモ 12 例ハ明カニ滲出性ト看做シウル。X線學的ニハ 12 例ニ於テ大空洞カ證明サル。

全治療患者中早期浸潤ハ唯 4 例テアル。全治者中ニ病肺ノ全虛脱ヲ遂ゲ得タルハ唯 3 例ニ過ギナイ。其ノ他ハ最モ強ク虚脱シ得タルモノテ「 $\frac{1}{2}$ 」容積ノ壓縮テアル。Strangdurchbrennung, ソノ他ノ補助術ハ適用シテ居ラス。全治者ニ於テ施行セル氣胸期間ハ 8 例カ 1 年未滿、15 例 1—2 年、10 例 2—3 年、2 例 3—4 年、唯 1 例ハ 4 年以上。滲出液ヲ生ジタルモノハ 36 例中 8。何レモ最後ノ效果ヲ阻止シタルモノナシ。氣腫ヲ生ジタルモノハ 3 例。

臨牀の治療 45% (全及ビ部分的ヲ合計シテ) ニ對シテ事可能ナ治療ハ 40% テアル。(刀根山、峯尾抄)

結核性疾患ニ於ケル Witebsky 氏補體結合、所謂不安定性反應及ビ「ツベルクリン、アレルギー」ニ就キテノ比較實驗

Yoshio Aoki u. Toru Tsudomi: Vergleichende Untersuchungen über die Witebskysche Komplementbindungen, die sog. Labilitätsreaktionen und die Tuberkulinallergie bei tuberkulösen Erkrankungen.

比較實驗トシテ 100 人ノ種々ナル期別ノ臨牀的ニ確實ナ肺結核患者、日本海軍ニ於ケル肋膜炎—帝國海軍胸膜炎ノ患者 58 例、肺炎加答兒、慢性氣管枝炎ノ結核性ニ疑シイ患者 36 例及肺臟外ノ結核患者 5 例カラナル所ノ 199 人ノ患者ニ試験シタ。婦人ニ於テハ月經周期、妊娠及附屬器疾患ノ影響ヲ血液蛋白ノ不安定性ノ上ニ否定シ得ナイカラ海軍病院ニ材料ヲ求め、20—30 歳ノ男子ノミヲ使用スルヲ得タ。

實驗成績

A. Witebsky 氏補體結合反應(W. K. K. 反應)ハ活動性肺結核ニ於テハ他ノ病型ニ於ケルヨリモヨリ多ク亦ヨリ高値ノ陽性度トヨリ明瞭ナ反應力ヲ示ス。活動性以外ノ例テハ 40% が弱陽性成績ニ過ギザルニ反シ、活動性型ナル全 76 例中 46 例即 60% ハ強陽性テアル。海軍胸膜炎テハ反應物質カ比較的高ク證明サレルコトハ興味ガアル。外科的結核中流注膿瘍ヲモツタ腰椎

「カリエス」群及腰椎「カリエス」ト肺浸潤トヲモツタ群トニ於テハ W. K. K. 反應ハ陽性テアル。

B. 比較實驗トシテ所謂不安定反應トシテ赤沈、滴像、Costa 氏反應、高田氏反應、凝固帶及血清「リバーセ」ヲ選ンダ。

先ツ W. K. K. 反應ト赤沈トノ關係、ソレカラ例ヘバ W. K. K. 反應ト滴像、滴像ト赤沈ノ知ク各個々間ノ相互關係ヲ調査シタ。

1. W. K. K. 反應ト赤沈トノ間ニ充分ナル一致ハナイ。活動性結核ニ於テハ是等ノ反應ハ或ル程度平行ヲ示ス、即 78 例中 58 回一致ガアリ即 75% テアル。他ノ病型ニ於テハコノ二ツノ反應ノ間ニハ平行關係ヲ見出スコトハ出来ヌ。

2. W. K. K. 反應ト滴像トノ間ニハ密接ナ關係ハナイガ滴像ト赤沈トハ密接ニ平行シテキル。

3. W. K. K. 反應ト Costa 氏反應トノ間ニハ Costa 氏反應ト赤沈トノ間ノ様ニ何等云フベキ平行ハナイ。

4. W. K. K. 反應ト高田氏反應並ビニ高田氏反應ト赤沈トノ間ニハ平行ハ成立セス。

5. W. K. K. 反應ト凝固帶及ビ凝固帶ト赤沈トハ平行テナイ。

6. W. K. K. 反應ト「リバーセ」價トハ決シテ平行テナイ。然シテ特ニ肺結核ノ例ニ於テ「リバーセ」價ト赤沈トノ間ニハ平行ノ傾向ヲ見出スコトが出来ル。肋膜炎ノ輕症結核ニ於テハ正常又ハ高キ價ヲ見ルニ反シ肺結核ニ於テハ低キ價ヲ見ルト云フ事實ハ興味ガアル。

C. W. K. K. 反應ト「ツベルクリン、アレルギー」、W. K. K. 反應ハ活動性肺結核ニ於テハ Mantoux 氏反應ト密接ナル關係ガアルト思ハレル。活動性型ヨリモ W. K. K. 反應ガ弱陽性テアル所ノ非活動性及輕イ結核型ニ於テハコノ關係ハナイ。一般ニ W. K. K. 反應陽性ナルモノハ Mantoux モ陽性テアル。コレニ反シテ Allergie 陽性ナルニ血清反應陰性ナルモノモ多數見ラレル。コレハ治療傾向ニアル非活動性結核テアル。「ツベルクリン」反應ト赤沈トハ平行セス。W. K. K. 反應、「ツベルクリン、アレルギー」及赤沈ハ實際ニ統一的テナイ。

Witebsky 結核補體結合反應ハ所謂不安定性反應ニ特徴ナ血清變化ヲ示サズ。亦「ツベルクリン」投與ニ依ルカ如キ「アレルギー」狀態ヲ表示スルモノデモナイコトハ實驗成績ニヨリ明カテアル。W. K. K. ノ反應物

質ハ恐クハ結核抗体アフルニ違ヒナイ。W. K. K. ガ抗原抗体性ノモノナルコトハ青木氏ノ實驗ノ示ス所ナル。

著者等ノ觀察ニ於テハ活動性結核ノ血清ハ 80.9%、非活動性ハ 41.9%、肋膜炎ハ 60.7%、疑ハシキ結核ハ 36.3%、肺外結核ハ 25.0%ノ陽性ナル。即結核性疾患ノ型ニヨリ陽性率ハ著明ニ相違シテアル。

青木氏ノ實驗ニ見ル Witebsky, Neuberg-Klopstock 竝ニ Blumenthal 三反應ガ極メテヨリ平行的ニ出現スル點ハ大イニ意義ガアル。唯特異性ニ關シテ相違アルノミ。著者等ノ成績モ示スガ如ク W. K. K. ト赤沈其他不安定性反應或ハ「ツベルクリン、アレルギー」トノ間ニハ根本的ノ相違ガアル。

次ニ結核血清ニ於ケル W. K. K. 物質ノ吸著試驗ハ Witebsky, Klingenstein ガ良好ナル成績ヲ擧ゲテアル所デアツテ W. K. K. ノ抗原-抗体反應ナルコトヲ證明スル。  
(刀根山、嶺尾抄)

ヴェルトマン氏反應ニ就キテ

Franz Pongor: Über die Weltmannsche Reaktion.

ヴェルトマン氏反應ハ所謂血清凝固反應テヴェルトマンニヨレバ滲出性結核ト増殖性結核トノ間ニ相違アリト云ツテアル。該反應ノ詳細ハヴェルトマンノ原著ニ讓ルガ1%—0.1%ノ「クロール、カルチウム」液5ccmニ血清0.1ccmヲ加ヘ振盪シ沸騰セル重湯煎中ニ15分オクノデアツテ絮狀ノ生シテアル試験管迄ヲ讀ミKoagulationsbandトスル。ヴェルトマンニヨレバKoagulationsbandハ健康者テハ1%—0.5%テ例外的ニハ0.4%迄アリ之ヲ正常範圍トス。炎症機轉ノ際ハ0.9%—0.6%デアリ短縮シタト稱シ、纖維性變化ノ際ハ0.4%—0.2%テ延長シタト稱ス。

著者ハ200例患者ニ就キ該反應ヲ施行セルニ健康者ノ範圍ハ0.35%デアツタ。

非活動性肺門病變者28例中75%ハ陰性デアツタ。増殖性病竈ヲ有スル30中70%ハ延長、増殖性結核ニシテ空洞形成アルモ38中65.7%ハ擴張。滲出性結核ニシテ空洞ナキモノ3例100%ニ短縮、滲出性結核ニシテ空洞形成アルモノ95中97.8%ハ短縮。

即チ増殖性結核ニ於テハ67.6%ニ於テノミ延長或ハ正常範圍ニ近キKoagulationsbandヲ示スニ過ギズ。之ニ反シ滲出性結核ハ殆ンド100%ニ於テ短縮ス。即チ陽性(短縮)ハ滲出性機轉ト關係アリ。

次ニ著者等ハ150例ニ就キ血液Ca量ヲ測定シタルニ

結核ノ病理學的機轉ト血清Ca値ハ平行セズ、増殖性ニモ滲出性ニモ同率ニCa値ノ高キモノト低キモノトアルヲ見タ。

100例ニ就キWeltmann反應ト血清Ca値トヲ同時ニ測定シタルニ反應陽性即短縮セルモノト陰性即延長セルモノトニ於テCa値ハ平行的ナラザルヲ見タ。唯Ca値ノ10.4mg%迄ハ低値、11.5mg%迄ハ正常、コレ以上ハ上昇値ナリト見ナレ得ルコトハ認メラレルデアラウ。

著者ノ成績ハ滲出性炎症性ノ機轉ガソノ機序ハコレ迄不明デアツタガ反應成績ヲ左右スル所ノ因子アルコトヲ物語ルモノナル。(刀根山、嶺尾抄)

○沈降反應ニヨル人型牛型及ヒ鳥型結核菌ノ型類鑑別ノ實驗

B. Grünberg: Ein Versuch der Typendifferenzierung humaner, boviner und aviner Tuberkulosebazillen vermittels der Präzipitation.

著者ハ結核菌ノ型類鑑別ニ沈降反應ヲ用ヒ、種々ノ種族ノ鶏ヲ材料トス。

鳥型結核菌ヲ以テ前處置サレタ鶏ノ血清ガ陽性ヲ示スモノ

- 鳥型……故ニ同種ノ……抗原 例ノ 60%
- 牛型……………抗原 例ノ 20%
- 人型……………抗原 例ノ 20%

牛型結核菌ヲ以テ前處置サレタル鶏ノ血清ガ陽性反應シタルモノ

- 牛型……故ニ同種ノ……抗原 例ノ 80%
- 人型……………抗原 例ノ 70%
- 鳥型……………抗原 例ノ 25%

人型結核菌ヲ以テ前處置サレタル鶏ノ血清ガ陽性反應シタルモノ

- 人型……故ニ同種ノ……抗原 例ノ 60%
- 牛型……………抗原 例ノ 55%
- 鳥型……………抗原 例ノ 55%

全對照ハ常ニ陰性ナル。

故ニ三型ノKoch氏結核菌ヲ以テ前處置サレタ鶏ノ血清ハ各々ノ型ニ對シテ等級ツケラレタ沈降能力ヲ呈スルトコロノ沈降素ヲモツテキル。コレノ沈降素ハ最密ニ同種ノPräzipitinogenニ對シテ最大ニ沈降スル能力ヲ示ス。異種抗原體ニ對スル結核血清ノ沈降反應ニ於テハ鳥型人及牛型間ノ差異ハ人及牛型相互間ノ差異ヨリ更ニ大キイ。夫レニモ拘ラズ實驗ノ結果カラス

レバ人及牛型カラ鳥型ヲ絶對的確實サヲ以テ鑑別シ  
ウルト云フ結論ハ信ジ得ナイ。確實ナ結核血清ハ同種  
抗原ヲ以テノ沈降反應ハ60—80%ノ陽性成績デア  
ル。實驗ノ結果ニヨレバ正常血清ハ決シテ結核抗原トハ  
反應シナイ。

鳥型結核菌ヲ以テ前處置セラレタ鶏ノ血清中ニアル沈  
降素ハ同種ノ Präzipitinogen ニ對シ即鳥型ニ對シ一  
定ノ特異性ガアル。何ントナラバ原則トシテ人及牛型  
ノ Präzipitinogen トハ沈降物ヲツクラスカラテアル。

沈降反應ノ成績ニヨレバ人及牛型結核菌ノ抗原の性  
質ノ間ニハ差異ハナイ。何シトナレバ同種ノ哺乳動物  
抗原ヲ以テ沈降サレル時モ異種ノモノヲ以テ行ヘ  
タ時モ陽性率ハ同ジカラテアル。

沈降反應ト一方鳥型結核菌ト他方哺乳動物結核菌ト  
抗原の性質ノ間ニ著明ナ差異ヲ示スガ、然シナガラ  
Koch 氏菌ノ個々ノ型ノ鑑別ニ對シテ絶對的確實ナル  
補助手段トハナラナイ。(刀根山、嶺尾抄)

## 結核外専門雜誌

死後摘出セル臓器及組織ノ細菌學的竝ニ組織學  
的檢索ヨリ觀タル結核菌ノ分布ニ就テ

### 1. 成人ノ肺結核ノ際得タル成績

R. Debré et M. Perrault: La dispersion du bacille  
de Koch, jugée par l'étude bactériologique et histolo-  
gique des organes et tissus prélevés post mortem.  
Résultats obtenus chez les tuberculeux pulmonaires  
adultes. (C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p.  
28.)

近時結核患者ノ流血中ヲ結核菌ガ通過シテ諸種臓器  
ニ傳播スルモノカドウカニ就テ多數ノ研究ガアツタ  
ガ、未ダ陽性ノ成績ヲ得ルニ至ラヌ。著者等ハ肺結核  
ニ罹患セル大人ノ患者ヲ死後肺結核病竈ヨリ遠隔セル  
場所ニアル臓器竝ニ組織ヲ摘出シテ、之ガ組織學的  
及細菌學的檢索ヲ行ツタ所、肺結核患者ニ於テハ終末  
性菌血症ノ存在ヲ認メズ。且ツ是等肺結核患者ノ末梢  
臓器及組織中ニハ一般ニ結核菌ヲ含有シナイ事ヲ認  
メタ。尙ホ A. Saenz et Robert Broca モ肺結核患者  
ノ生存中ニ於テモ流血中結核菌ガ陰性ナル事ヲ述ベ  
テ居ル。從ツテ肺結核患者ヲ結核菌性菌血症ガ起ルノ  
ハ例外的ノモノト思ハレル。(京府大、鈴木抄)

死後摘出セル臓器及組織ノ細菌學的竝ニ組織學  
的檢索ヨリ觀タル結核菌ノ分布ニ就テ

### 2. 結核性ノ兩親ヨリ生レタル初生兒竝ニ初期結 核感染初生兒ノ剖檢成績

R. Debré et M. Perrault: La dispersion du bacille  
de Koch jugée par l'étude bactériologique et histo-  
logique des organes et tissus prélevés post mortem.  
Résultats obtenus chez les nourrissons issus de  
parents tuberculeux et chez les nourrissons atteints

de élisions initiales de tuberculose.

(C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 31.)

著者等ハ死後摘出シタ初生兒ノ末梢臓器及組織ヲ檢  
索シテノ結論ヲ得タ。即チ初生兒ノ初期結核ノ經過中  
血行ニ依ル結核菌ノ移動ハ一時的ノモノデアリ、血行  
ヲ通過スル結核菌ノ數モ少數ニ過ギナイ。且ツ此ノ結  
核菌ノ移動ハ A. Saenz et Robert Broca ガ證明シタ  
様ニ初期病竈ノ進行中ニ行ハレルヲ知ル。而シテ何  
レノ場合ニアツテモ、病竈カラノ結核菌ノ流出ハ僅少  
ニシテ而モ稀デアルカラ、斯カル少數ノ結核菌ガ臓器  
中ニ誘導セラレテモ直チニ臓器内テ破壊サレテシマ  
フモノデアル。(京府大、鈴木抄)

### 實驗的結核症ニ於ケル「アレルギー」ノ局所性變 化ノ研究

J. Kochanowski: Recherches sur la topographie  
allergique dans la tuberculose expérimentale.

(C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 102.)

本實驗ハ BCG ニ感染シタ海猿ノ實驗的結核症ニ  
於ケル Allergie ノ局所性變化ヲ研究シタモノデアル。  
即チ著者ハ BCG ノ馬鈴薯培養ノ 50mg カラ 200mg  
ノ種々ノ菌量ヲ 1ccm ノ食鹽水ニ溶カシタモノヲ用  
キ、之ヲ常ニ海猿ノ腹腔内ニ注射シタ。次ニ皮膚ノ  
「アレルギー」状態ヲ研究スル爲メニ注射後 15—20日  
經テカラ結核感染海猿ノ皮内ニ Tuberkulin 0.001g  
ヲ注射スル。其他前處置動物ニ對シ Laparotomie 或  
ハ Thorakotomie ヲ施行シタ後 1%ノ Tuberkulin  
0.1ccm ヲ腹腔内、胸腔内ノ諸臓器ノ莢膜下ニ注射  
ス。斯ク操作セル後 6—48 時間テ動物ヲ屠殺シ、諸臓  
器(肝臓、腹膜、腸壁、肺臓及肋膜)ニ就テ組織學的檢  
索ヲ行フ。而シテ組織學的檢索ノ際ハ主トシテ細胞性

浸潤(殊に「エオジン」嗜好細胞ノ増加)ヲ注目スル。「エオジン」嗜好細胞ノ出現ハ「アレルギー」性炎症ニ特有ナル現象ト思考サレルノテ、著者ハ之ヲ數量的見地カラ研究スルコトヲ企テタ。即チ著者ハ鏡檢ノ際視野 50 個中ニ於ケル「エオジン」嗜好細胞ノ平均數ヲ測定シタ。之ハ「アレルギー」状態ノ比較的測定法テアルガ、組織 1 cm 中ニアル「エオジン」嗜好細胞數ノ概算ヲ得ルニ便利ナル。著者ノ成績ニ據ルト、Tuberkulin 注射ノ際臓器(肝臓、肺臓)中ニ現ハレル「エオジン」嗜好細胞性反應ハ皮膚ノ反應性ト並行シナイ。皮膚反應性ガアル動物テハ「エオジン」嗜好性細胞ハ肝臓及肺臓テハ既ニ 6—10 時間テ現ハレル。然シ皮膚反應ガ陰性ノ動物テモ Tuberkulin 注射後 9—12 日經ツト現ハレル。反之、腹膜、肋膜、腸壁ノ「アレルギー」性反應ハ皮膚反應ト同時ニ發スルモノテアル。而モ腹膜ノ「アレルギー」性反應ガ一番強イノヲ知ル。

(京府大、鈴木抄)

硫酸及醋酸ノ毒性ノ比較研究ニ基ク哺乳動物結核菌 *Bacillus paratuberculosis* 及 *Streptothrix* ノ分類

A. Saenz, M. Sadettin et L. Costil: Différentiation des bacilles tuberculeux et des Streptothricées, révélée par l'étude de la toxicité comparée et l'acide sulfurique et de l'acide acétique.

(C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 215.)

既ニ著者等ハ硫酸及醋酸ノ人型、牛型、鳥型、結核菌ニ及ホス作用ヲ比較研究シ *Bacillus paratuberculosis* ニ於ケルト同様 R 型ト S 型ト變異ニ就テ發表シタ。今度ハ *Streptothrix* 及 *Nocardia* ニ及ホス硫酸及醋酸ノ作用ヲモ併セテ述ベテ居ル。先ヅ硫酸ト醋酸ノ人型結核菌ニ及ホス影響ヲ見ルニ、10—20%ノ硫酸ノ半時間ノ作用ニ於テハ其毒性ハ全ク認メラレナイ。反之、醋酸ハ 5%ノ濃度テ既ニ結核菌ノ發育ヲ完全ニ防止スル。次ニ *Bacillus paratuberculosis* テ同様ノ實驗ヲ試ミルト、硫酸ハ明カニ菌ニ對シ有害ナルガ、5%ノ醋酸ニ對シテハ本菌ハ能ク抵抗スルヲ知ル。最後ニ *Streptothrix* 及 *Nocardia* ニ對スル作用ヲ見ルニ、硫酸モ醋酸モ 5—20%ノ濃度テ完全ニ之ガ發育ヲ防止スルヲ知ル。

(京府大、鈴木抄)

劣性型牛型結核菌ノ培養性狀ノ研究

R. Laporte et U. Battaglini: Études des caractères de culture des bacilles tuberculeux bovins dysgoniques

(C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 302.)

S. Griff 氏等ハ「グリセリン」培養基上ニ於ケル結核菌ノ發育ニハ二ツノ様式ガアル事ヲ述ベタ。分離直後ノ牛型結核菌菌株ノ大部分ハ同培養基上ニ於ケル發育ガ不良ヲ所謂劣性型ガ多イ。反之、人型結核菌菌株ノ多數ハ「グリセリン」培養基上ニ容易ニ發育シ所謂優性型ヲ示スモノテアル。著者ハ最近分離シ得タ毒性強キ牛型結核菌 12 株ニ就テ研究ヲ始メタ。コノ菌株ノ中テ普通ノ培養基ニ生エ難イ劣性型ノ存スルノヲ認メタ。例ヘバコノ菌株ハ Löwenstein 氏普通培養基テハ集落ガ 5—10 週後ニ現ハレタ。集落ノ數モ少ナク、形モ小サクテ時ニ「ルーベ」テ見得ルニ過ギナイ様ヲモノガアル。培養數ヶ月後ニ於テモ其ノ大サ帽針頭大ヲ越エス。集落ノ色ハ眞珠様白色ヲ、表面ハ光澤ガアリ平滑ナル。海狹ノ Passage テ同形ノ集落ヲ生ズルガ、此ノ際ハ一層集落ノ大サヲ増シ 1.5—2.0 mm ノ大サトナル。培養後 4—5 週ニシテ集落ヲ生ジ、集落ハ黄色ノ深色ヲ示ス。古イ集落ハ屢ニ桑實狀ヲ呈シ、次テ初發集落ノ表面ニ第二ノ集落ガ現ハレル。然シ一般ニ集落ハ植替ヘ毎ニ小サクナツテシマフ。次ニ「グリセリン」加馬鈴薯培養基上テハ發育ガ非常ニ不良テ而モ緩テアル。又コノ普通培養基上ニ於テハ劣性ノ發育ヲ示ス牛型結核菌ハ他ノ培養基特ニ Besredka ノ培養基テハ非常ニ能ク發育シ集落ハ培養後 4—12 日テ現ハレル。

(京府大、鈴木抄)

劣性型牛型結核菌ノ形態學的性狀ト菌型解離現象ノ研究

R. Laporte et U. Battaglini: Etude des caractères morphologiques et de la dissociation des bacilles tuberculeux bovins dysgoniques.

(C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 304.)

Löwenstein 氏培養基上テ直接分離シタ若イ培養ハ液體性「メヂウム」ヲ以テ完全ニ而モ容易ニ Emulsion トナシ得ル。塗抹標本ニ於テハ本結核菌ハ多ク孤立シテ存在シ、稀ニ小塊ヲ作りテ群集シテ存在ス。形ハ短 (0.6—0.8 $\mu$ )ニシテ、兩端ハ尖リ、鉛直或ハ彎曲ヲ呈ス。古クナルト屢ニ不規則ナル形ヲ示ス。一般ニ古イ集落ハ容易ニ Emulsion トナラヌ。

次ニ Jensen et Frimodt-Möller ガ述ベタ様ニ結核菌ノ劣性型ハ自然的ニ優性型ニ解離スルモノテアル。此ノ型ノ解離ハ人型結核菌テハ必發ノ現象ナルガ牛型結核菌テハ稀ナル。著者ハ牛ノ結核性淋巴結節ヲ



磨碎シテ Emulsion ヲ接種シテ海狸ノ肝臓カラ培養シ得テ培養基中テ明カニコノ解離ヲ認メルコトが出来タ。即チ培養後 4 週日後ニ小サイ平滑集落中ニ opaleszierend ノ灰白色ノ集落ガ生エタ。本集落ハ速カニ突出シ來リ、甘蔗様ノ不規則形ヲ呈シ、表面ハ鈍光且ツ小皺ヲ呈シタ。此ノ R 型即チ優性型菌ハ速カニ發育シ培養基ヲ蔽ヒ始メタ。然ルニ其他ノ劣性型菌ノ平滑集落ハ培養後 3 ヶ月經ツテモ未ダ以前ト少シモ變化ヲ示サナカツタ。以上ノ事實ハ平滑集落ヲ示ス劣性型菌ガ小皺ヲ有スル集落ヲ示ス優性型菌ニ解離シ得ルモノナルコトヲ示スモノデアル。一般ニ平滑集落モ小皺ノアル集落モ何レモ海狸、家兎ニ對シ大ナル毒力ヲ有スルモノデアル。(京府大、鈴木抄)

結核菌ノ Acetonextrakt 注射法ニ依リ得タル結核菌ノ平滑集落ノ生物學的性狀ニ就テ

L. Nègre et J. Bretey: Sur certaine propriétés biologiques des cultures lisses de bacilles tuberculeux obtenues par la méthode des injections d'extrait acétonique de bacilles de Koch. (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. 118. p. 295)

著者等ハ結核材料ヲ接種シテ海狸ニ結核菌ノ Acetonextrakt ヲ頻回注射シ、其後同海狸ノ結核病竈カラ材料ヲ得テ之ヲ Löwenstein 氏培養基ニ植エ、小皺アル集落ト平滑集落ヲ有スル抗酸性菌ヲ得タ。是等兩集落ノ生物學的性狀ヲ見ルニ、平滑集落菌株ノ凡テハ室温テハ發育シナイ。38°C テ Sauton 氏培養基ノ表面ニ薄イ膜狀ニ發育スル。而モコノ菌株ノ 5—10mg ヲ海狸ニ皮下接種スルモ毒力ヲ示サナイ。只 Béc 株ノミ家兎ニ對シ有毒テ、1.0—0.01mg ノ靜脈内接種テ家兎竝ニ家鴉ヲ 3—4 週テ斃スノヲ見タ。次ニ著者等ハ之ヲ以テ海狸ヲ免疫セン事ヲ試ミ、Béc 株ノ平滑集落ノ 10mg ヲ皮下ニ豫メ注射シ、其後 6 週經過セル後他ノ牛型結核菌ノ 0.005mg ノ皮下接種ヲ行ツタ所該結核感染ニ對シ極メテ強イ抵抗力ヲ示スノヲ見タ。(京府大、鈴木抄)

鶏「コレラワクチン」及同培養濾液ノ實驗的海狸結核ノ進行ニ及ボス影響

J. Valtis et F. Van Deinse: Influence des inoculations répétées de vaccin a Pasteurella et de filtrats de Cultures sur l'évolution de la tuberculose expérimentale du Cobaye (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. 119. p. 403)

以前ニ著者ハ結核性海狸ニ於テ二次的ノ鶏「コレラ」ノ感染ガ實驗的海狸結核ノ進行ヲ阻止スル作用ガアル様ニ思ツタノヲ續イテ本研究ヲ行ツタモノデアル。先ヅ第一實驗ニ於テ 24 匹ノ海狸ノ皮下ニ毒性強キ結核菌(牛型 H 株)、0.0001mg ヲ接種シタ。第 1 群ノ對照海狸群(6 匹)ハ接種後平均 89 日テ斃死シタ。次ノ第 2 群(6 匹)ハ鶏「コレラ」菌ノ生菌液ノ 1 cc ヲ皮下ニ半週毎ニ注射シテ治療シタガ、平均 77 日テ結核テ斃死シタ。次ノ第 3 群(6 匹)ハ 0.5% ノ割ニ「ホルマリン」ヲ加ヘテ鶏「コレラ」菌「ワクチン」ノ 1 cc ヲ皮下ニ半週毎ニ注射シテ治療シタガ、接種後平均 49 日テ斃死シタ。最後ノ第 4 群(6 匹)ニハ 70°C テ 1 時間加温殺菌シタ鶏「コレラ」ワクチンヲ皮下ニ半週毎ニ注射シタガ、是等ノ動物ハ接種後平均 53 日テ斃死シタ。次ニ第 2 實驗ニ於テ、8 匹ノ海狸ノ皮下ニ毒力アル結核菌(牛型 I 株)ノ 0.0001 mg ヲ接種シタ所コノ中 3 匹(對照)ハ接種後平均 80 日テ斃死シ、残りノ 5 匹ハ鶏「コレラ」菌培養ヲ Chamberland L<sub>2</sub> テ濾過シタモノヲ皮下ニ注射シタガ平均 50 日テ斃死シタ。以上ノ實驗カラ種々ノ方法ヲ製造シタ鶏「コレラ」ワクチン竝ニ同培養濾液ハ、比較的少量毒性強キ結核菌ヲ接種シテ結核罹患海狸ニ對シ結核感染ノ進行ヲ阻止シナイノミナラズ、反對ニ結核ノ進行ヲ助長スルモノナルコトヲ知ル。(京府大、鈴木抄)

漿液性纖維素性肋膜炎滲出液中ニ於ケル結核菌ノ分離培養竝ニ該菌ノ海狸接種法ノ比較研究

A. Saenz, J.-M. de Miguel et L. Costil: Recherche Comparative, par la culture et l'inoculation au Cobaye, pour l'isolement du bacille de Koch dans les épanchements Siro-fibrineux de la Plèvre. (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. 118. p. 410)

漿液中ノ結核菌ノ證明ハ困難ナモノデアルガ、著者等ハ獨特ノ方法ヲ用キテ結核性肋膜炎ニ就テ實驗ヲ行ツタ。即チ漿液性纖維素性肋膜炎滲出液ヲ 15—20cc 無菌的ニ採取シ、10% ノ枸橼酸曹達ヲ加ヘテ凝固ヲ防ギタル後之ヲ 15 分間遠心、沈渣ヲ 2 ツニ分ケル。即チ沈渣 1 cc ヲ 2 cc ノ食鹽水中ニ溶カシ之ヲ 2 匹ノ海狸ノ皮下ニ接種ス。沈渣ノ残りハ乳鉢中テ無菌ノ砂ヲ加ヘテ磨碎シ、15% ノ硫酸 1 cc ヲ加ヘテ 15 分間放置ス。次ニ指示薬トシ「リトマス」液ノ 1—2 滴ヲ加ヘ、弱酸性ニナルマテ 30% ノ曹達液ヲ加ヘル。之ヲ 6 本ノ Löwenstein 氏培養基又ハ Petraghani 氏培

養基ニ植エル。培養試験管ハ水平ノ位置テハ 38°C ノ  
 暗室中ニ入レル。以上ノ方法ニ依リ著者ハ 15 例ノ肋  
 膜炎ノ際滲出液ニ就テ直接ノ結核菌證明ハ陰性デア  
 ツタガ、約 60%ニ於テ結核菌ヲ培養證明シ得タ。一  
 方海狸ヘノ接種ハ 30%シカ陽性成績ヲ示サナカツタ。

(京府大、鈴木抄)

肺結核症ニ於ケル Weltmann 氏血清凝固反應竝  
 ニ Takata-Ara 氏反應

G. Carrière, P. Martin et A. Dufossé: La séro-coa-  
 gulation de Weltmann et la réaction de Takata-Ara  
 dans la tuberculose pulmonaire (C. R. de la Soc. de  
 biol., 1935. t. 118. p. 460)

著者ハ 27 例ノ肺結核患者ニ於テ Weltmann 氏血清凝  
 固反應ト Takata-Ara 氏反應トヲ實施シタ。又 Polo-  
 novski et Warembourg ノ方法ニ依リ血清蛋白商、  
 Westergreen 氏法ニ依リ赤血球沈降速度モ併セテ測  
 定シタ。其結果 Weltmann 氏血清凝固反應ハ結核ノ  
 種類(滲出性、成形性)ニ從ヒ變化スルノヲ認メタ。  
 即チ成形性ノモノテハ減少シ、纖維素性ノモノテハ増  
 加スル。全ク特異性テハナイガ、之ニ依リ症狀ガ滲出  
 性カ纖維素性カラ表ハス様ニ思ハレル。次ニ赤血球沈  
 降速度ト Takata-Ara 氏反應ノ成績ハ一致シナイ。又  
 Takata-Ara 氏反應ハ全ク血清ノ蛋白商ニ關係スル様  
 ニ思ハレル。

(京府大、鈴木抄)

人類ノ Tuberkulin 皮膚 Allergie ニ及ボス人工  
 熱ノ影響

CH. Gernez et CH. Marchandise: Influence de la  
 fièvre provoquée tuberculique chez l'homme (C.  
 R. de la Soc. de biol., 1935. t. 118. p. 462)

著者ハ發熱療法ガ結核以外ノ他ノ疾患ニ罹ツテ居ル  
 患者ノ Tuberkulin ニ依リ皮膚反應ヲ低下セシメルノ  
 ヲ認メタ。年齢 20—60 歳テ主トシテ神經性疾患及  
 「リュウマチス」性疾患ニ罹患セル 20 人ニ Pasteur 研  
 究所ノ生マノ Tuberkulin ヲ用キテ實驗シタ。ソシテ  
 皮膚反應ヲ施行スル前、翌日又ハ其ノ後ニ軟性下疳菌  
 「ワクチン」特ニ Dmelcos 「ワクチン」ヲ靜脈内ニ 1.5  
 —3.0ccm 注射シタ。結果ハ次ノ如クテアル。既ニ體  
 温最高ニ達セル時ニ Tuberkulin ニ依リ皮膚反應ガ充  
 分成立セル時ハ高温ハ何等抑制作用ヲ示サナイ。即チ  
 發熱 10 時間前ニ皮膚反應ヲ施行スレバ對照實驗ニ於  
 ケルト同様皮膚反應ハ進行スル。反之、高温ハ次ノ條  
 件テ Tuberkulin 皮膚反應ヲ抑制スル。a) 體温最高

ニ達スル前 5—7 時間前ニ皮膚反應ヲ行ヘバ皮膚反應  
 ハ微弱トナリ、遲延シ且ツ反應期間モ短縮セラレル。

b) 少クトモ發熱前 5 時間前ニ皮膚反應ヲ施行スレバ  
 皮膚反應ハ完全ニ陰性ニ止マル。人工的ニ惹起シ得タ  
 Tuberkulin 皮膚反應ノ Anergie ノ期間ハ人ニヨリ違  
 フガ大體解熱後 10 時間經過スレバ無クナル。ソレ故  
 其レ以後ニ皮膚反應ヲ施行スルト強度ノ反應ガ現ハ  
 レル。又高温ノ程度ガ Anergie ノ成立ニ著シク關係  
 スルモノテアル。即チ Dmelcos ヲ 2 ccm 注射シタガ  
 體温上昇ガ 38°C 以下ニ過ギナカツタ 2 人ノ患者ニ於  
 テハ皮膚反應ハ全ク影響サレナカツタ。

要之、軟性下疳菌「ワクチン」ノ靜脈内注射ニ依リ一過  
 性ノ體温上昇ヲ惹起スル時ハ實驗的ニ Tuberkulin 皮  
 膚反應ノ Anergie ヲ證明スル事ガ出來ル。コノ A-  
 nergie ハ一過性デアリ、之ハ體温上昇機能ニ因ルモノ  
 テ流血中ニ注射サレタ Antigen ノ性質ニ因ルモノテ  
 ハ無イ。事實 Dmelcos ノ靜脈内注射ノ際患者ノ體温  
 上昇ガ著シクナイ時ハ皮膚ノ反應性ニ對シ何等ノ作  
 用ヲ持タナコイトヲ知ル。以上ノ事實ハ、恐ク一定ノ  
 有熱性急性傳染病ノ際 Tuberkulin 反應ヲ検査シ Ha-  
 utanergie ガ成立スル事實ヲ證明スル様ニ思ハレル。

(京府大、鈴木抄)

病毒材料ヲ接種シ更ニ結核菌ノ Acetonextrakt  
 ノ注射ヲ施行セル海狸ヨリ得タル實驗成績ノ價  
 値ニ就テ

L. Negre, J. Bretey et O. Gehrardi: Sur la valeur  
 des résultats obtenus Chez les cobayes inoculés avec  
 un produit pathologique et traités par des injections  
 d'extrait acétonique de bacille de Koch. (C. R. de  
 la Soc. de biol., 1935. t. 118. p. 649)

以前著者ノ 1 人ハ J. Valtis, F. Van Deinsse et J.  
 Beerens ト共ニ海狸ニ結核ノ疑ハシイ病毒材料ヲ接  
 種セル後半週毎ニ 3 ヶ月ニ互リ結核菌ノ Acetonext-  
 rakt 1 ccm 宛ヲ注射スル時ハ單純ナ接種ガ陰性ニ終  
 ル場合テモ他ノ方法ニ依リ材料中ノ結核菌ガ時トシ  
 テ出テ來ルコトヲ報告シタ。著者等ハ之ガ價值ヲ確メ  
 ント欲シ次ノ實驗ヲ行ツタ。先ヅ新鮮ナル 1 群ノ海狸  
 ニ結核菌 Acetonextrakt ノ 1 ccm 宛ヲ 60—75 日間ニ  
 互リ半週毎ニ皮下ニ注射シ後動物ヲ屠殺シ、ソノ淋巴  
 腺及臟器ヲ培養セルモ小臑アル聚落ヲ有スル結核菌  
 ノ證明ハ凡テ陰性ニ終ツタ。只 4.5%ニ於テ是等動物  
 カラ平滑聚落ヲ有スル抗酸性菌ヲ分離シ得タガ該菌

ハ海狸、家兎、家鶏ニ對シテ全ク毒性が無カツタ。反之、豫メ病毒材料ヲ接種シ更ニ結核菌ノ Acetonextrakt ヲ注射シタ海狸ニ於テハ 24.4%ニ於テ陽性成績ヲ得タ。即チ腫大セル淋巴腺ノ材料ヲ培養スルト、海狸ニ對シテ毒性強キ酸アル聚落ヲ有スル結核菌ト、靜脈内接種ニ依リ家兎、家鶏ニ對シテ毒性ヲ示ス平滑聚落ノ抗酸性菌トヲ得タ。且ツコノ培養シ得タ結核菌ハ海狸ノ自然的結核感染ノ場合ニ除ケバ大多數ノ場合接種材料中ノ結核菌ニ由來スルモノナルコトヲ知ル。

(京府大、鈴木抄)

#### 結核菌ノ Lyse ニ及ボス pH ノ影響

R.-O. Prudhomme: Influence du pH sur la lyse des bacilles tuberculeux (C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 983)

Ph. Spanier, G. Boïevska, E. Tchertkova et L. Sebreznikova ハ結核菌ガ 5%ノ「スクレイン」酸溶液ニ依リ 37°C 72 時間ヲ溶解スルコトヲ報告シタノテ著者ハ之ガ追試ヲ行ツタ。即チ結核菌ノ Emulsion 1 ccm ヲ 5%「スクレイン」酸溶液ノ 1 ccm ト混合シタ。又「スクレイン」酸ハ Byla 會社ノ 1934 年 5 月發賣ノモノ (pH=2.40)、1934 年 9 月發賣ノモノ (pH=2.54)、1934 年 10 月發賣ノモノ (pH=2.60) 3 種ヲ用キ實驗ヲ行ツタガ結果ハ陰性ニ終ツタ。今 1934 年 5 月發賣ノ「スクレイン」酸 (pH=2.40) ノ pH ヲ 1.9 ー直シタモノヲ結核菌ニ加ヘテ 37°C ノ孵籠中ニ放置スルト前者ニ於テハ結核菌ガ依然トシテ抗酸性ニ留マルニ拘ハラズ、pH ガ 1.9 ノ「スクレイン」酸中ノ結核菌ハ既ニ 4 日ヲ染マラス様ニナル。即チ Ph. Spanier 等ガ陽性ノ成績ヲ得タハ恐ク Merck 會社ノ「スクレイン」酸ノ pH ガ 2.0 以下テアツタ爲メト思ハレル從ツテ又結核菌ニ對スル特異性ノ溶菌作用ハ「スクレイン」酸自身ニアラズシテ其ノ酸性度ニ依ルモノト思ハレル。即チ結核菌ハ pH ガ 2.0 以下ノ時ハ直チニ抗酸性ヲ失ヒ、次テ崩壊スル。酸性度ガ其レ以上強イ時ハ一層速カニ崩壊スル。尙ホ結核菌ハ濃厚ナル鹽酸、硫酸、硝酸ニ會ツテハ 5 分間テ完全ニ消失スルモノナル。

(京府大、鈴木抄)

#### Tuberkulin 皮膚反應ノ強度ニ及ボス非特異性因子ノ作用ニ就テ

CH. Gernez et CH. Marchandise: Action de certains facteurs non spécifiques sur l'intensité de la cuti-réaction tuberculique (C. R. de la Soc. de biol.,

1935, t. 118, p. 996)

著者ハ既ニ人工熱ガ Tuberkulinallergie. ヲ有スル患者ニ於テ一時性ノ Tuberkulinanergie ヲ惹起スルコトヲ述ベタ。即チ皮膚ノ Tuberkulinallergie ハ一定ノ非特異性因子ニヨリ弱メラレ又ハ失ハレルヲ見ル。又 Frommel, Sierro et Bachmann (Presse médicale, 1933, p. 1218) ハ皮膚ノ Tuberkulinallergie ト皮膚ノ Quaddelresorptionszeit (Q. R. Z.) トノ間ニ一定ノ關係ノアルコトヲ述ベタ。從ツテ著者モ Aldrich-Mac Clure 氏法ニ依ル Q. R. Z. ノ速サト皮膚ノ Tuberkulinallergie ノ減弱度トノ關係ニ就キ調べタガ一定ノ並行的關係ハ之ヲ認メル事ガ出來ナカツタ。反之、神經系統疾患、血管神經ノ疾患並ニ循環器ノ疾患ハ皮膚ノ Tuberkulin 反應ノ變化ニ對シ大ナル役割ヲ演ズルモノナルコトヲ認メタ。(京府大、鈴木抄)

#### 肋膜ノ結核菌性重感染ニ就テ

A. Boquet et R. Laporte: Sur infection tuberculeuse pleurale (C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 1267)

著者ハ海狸、家兎ヲ用キ肋膜ニ對スル結核菌重感染ノ實驗ヲ試ミ、重感染ニ依リ壁側肋膜ニ Tuberkel ガ形成セラレ、或場合ニハ出血性滲出液ト肋膜癒着ノ生ズルヲ認メタ。著者ハ肋膜滲出液ノ產生ハ Koch 氏現象或ハ Bail 氏現象ノ種類ノ様ニ敏感性ノ肋膜中ニ菌體ガ急激ニ侵入シ起ル様ノ初發反應ノ様ナモノトハ何等關係ガ無イ。即チ漿液性纖維素性肋膜炎ハ粘膜炎ニ對シ結核菌ガ引續キ益々盛ニ播種セラレル結果ニヨツテ生ズルモノナルト見做ス。且ツ著者ハ結核菌ノ粘膜炎散布ハ肋膜局所ノ結核菌ノ重感染ニ因ルモノテ、漿液性纖維素性肋膜炎ノ成因ハ此ノ肋膜ノ病竈カラ斷エズ送ラレル結核菌ノ刺戟ナリ。或ハ斷エザル炎症性反應物質ノ刺戟ニ依リ惹起セラレタ局所性 Allergie 性反應ノ結果ト思考シテケル。(京府大、鈴木抄)

#### 結核菌ノ乳腺並ニ胎盤通過ニ就テ

A. Gaiginsky et J. Petresco: Sur le passage du bacille de Koch dans les glandes mammaires et à travers le placenta (C. R. de la Soc. de biol., 1935, t. 118, p. 1280)

著者ハ一群ノ妊娠セル雌性海狸 (16 匹) ノ氣管内ニ牛型結核菌ノ 0.001mg (10 匹) 及 0.01mg (6 匹) ヲ接種シ接種後其乳腺ヲ切除シ検査セルモ、乳腺ハ何等結核性病變ヲ呈セズ。且ツ乳腺中結核菌ノ存在ヲ認メ得ナ

カツタ。之ニ反シニ群ノ雌性海猿 30 匹(中 24 匹ハ妊娠セルモノ)ニ對シ靜脈内ニ同一牛型結核菌ヲ注射セル後乳腺ヲ切除シ之ヲ培養検査セルニ、30 例中 15 例ニ於テ結核菌ヲ培養シ得タ。他ノ 12 例ハ直接培養ハ陰性ナリシモ、他ノ海猿ニ乳腺乳劑ヲ注射シ始メテ陽性ノ成績ヲ得ルコトが出来タ。即チ總計 17 例ニ於テ陽性ノ結果ヲ得テキル。尙ホ 19 例中 3 例ニ於テ胎兒臟器ヲ以テシテ培養上、且ツ海猿接種上陽性ノ成績ヲ得タ。即チ結核菌ノ靜脈内接種ノ際ハ結核菌ノ胎盤通過ノ可能ナルヲ知ル。(京府大、鈴木抄)

腦膜炎ヲ伴ヘル粟粒結核ノ一例ニ於テ腦脊髄液及血液ヨリ Nègre, Valtis et Van Deirse 氏法ニ依リ分離セル二種ノ結核菌ノ毒性ニ就テ

P. Armand-Delilie et H. Gavois: Sur la virulence de deux souches différents de bacilles tuberculeux isolés respectivement du liquid céphalo-rachidien et du sang par la méthode de Nègre, Valtis et Van Deirse dans un cas de tuberculose miliaire avec méningite. (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. 118. p. 1317)

粟粒結核ノ 1 例ニ就テ著者ハ結核菌ノ 2 種即チ R 型ノ 2 種ニ分離シ得タガ、其ノ性狀並ニ毒性ハ互ニ著シク異ツテキルヲ認メタ。直接培養法ニ依リ脊髄液カラ分離シ得タ第一菌株ハ極メテ毒性強ク人型結核菌トシテノ凡テノ性狀ヲ具備シテ居ル。即チ 1/100mg テ海猿ヲ 6 週間テ斃スガ家兎ニ對シテハ毒性が無カツタ。次ニ第 2 菌株ハ間接法ニ依リ血液カラ分離シ得タモノテ、先ツ血液ヲ海猿ニ接種シ其後 L. Nègre, J. Valtis et F. Van Deirse 氏等ニ依リ推奨セラレテキル方法ニ從ヒ結核菌ノ Acetonextrakt ノ注射ニヨリ該海猿臟器ヨリ培養シ得タモノテアル。之ノ菌株ハ培養シ難ク、又牛型結核菌ノ一般性狀ニ於テ見ル様ニ海猿ニ對シ毒性少ナク、而モ家兎ニ對シ毒性が強イ。尙是等 27 ノ結核菌ノ間ニ存スル差異ノ原因ハ其起原(脊髄液或ハ血液)ノ相違ニ歸スルモノナリヤ、又ハ分離方法ニ依リ變化ニ基クモノナルカノ疑問ニ對シテハ著者ハ未ダ決定シ得ナイ様テアル。

(京府大、鈴木抄)

BCG ヲリ得ラレタル同質性培養ノ生物學的性質

P. Denys: Propriétés biologiques d'une culture homogène obtenue aux dépens du BCG. (Comptes rendus d. Séances d. l. Société d. Biologie

Tome CXVIII, No. 8, 1935.)

前回は於テ 2 株ノ BCG ノ同質性培養ニ變化スル方法ヲ發表セルが今回ハソノ性質ニツイテ詳細ニ記述セリ。(京府大館石抄)

BCG ヲリ Arloing 型同質性培養ノ製作

P. Denys: Obtention de cultures homogènes du type Arloing aux dépens du BCG.

(Comptes rendus d. Séances d. l. Société d. Biologie Tome CXVIII, No. 8, 1935.)

著者ハ 1933 年ニ計畫シ成功シタ BCG ノ異レル 2 株ヨリ同質性培養ヲエタル方法ヲ記述セリ。

(京府大館石抄)

肋膜炎ヲ介シテノ實驗的結核感染

Boquet et Laporte: Infection tuberculeuse expérimentale par voie pleurale

(Comptes rendus d. Séances d. l. Société d. Biologie. Tome CXVIII, No. 8, 1935.)

Paterson, Corper et Rensch ガ不成功ニ終ツタノテアルが、肋膜炎内注射ニヨリ人間ノ結核性肋膜炎ノ浸出性傷害ヲ家兎並ビニ「モルモット」ニ試ミテ以來、斯カル感染ノ方法ハ殆ンド全ク放棄セラレタ。ソコテ著者等ハ手術方法ヲバ多少變ヘテ「モルモット」、家兎、猿ヲ用ヒ肋膜炎ヲ介シテノ結核感染ニツキ實驗セルニ、全例而モ何レノ種類ノ動物ニ於テモ肋膜炎ハ結節型テアリ且ツ疾患ノ末期ニ至ルマテ産生的性質ヲ保持シテキル。ソノ時期ニ滲出液ハ出血性ニカハル。ソノ際白血球像ハ人間ノ結核性肋膜炎ノ時見ラレルモノト殆ンド一致シテアル。(京府大飯塚内科、館石抄)

同質性 BCG (S 型) 及ビ正常 BCG (R 型) ノ接種ニヨリ家兎ニ於テ惹起セシメタル組織學的傷害ノ比較研究

Picard (E) et Denys (P): Etude comparative des lésions histologiques déterminées chez le lapin par inoculation de BCG homogénéisée (type S) et de BCG normal (type R)

(Comptes rendus d. Séances d. l. Société de Biologie Tome CXVIII No. 15, 1935.)

著者等ノ 1 人ハ最近 BCG ヲリ Arloing 型ノ同質性培養ヲウル 1 法ヲ記述セリ。而シテ同質性 BCG 或ハ S 型ハ家兎ニ極多量ニ靜脈内接種ヲ行フト 2 乃至 6 週ニ於テ動物ノ死ヲ來ス所ノ敗血性感染ヲ惹起スルコトヲ證セリ。今回ハ著者等ハ正常 BCG 及ビ同質

性 BCGヲ接種セル家兎體內ニ於テ得タル病理解剖の傷害ニツキ檢シタリ。

此ノ比較研究ノ内テ次ノ事柄ヲ結論シウル。即チ同質性 BCG (或ハ S 型) ニヨリ惹起セラレタ 傷害ハ正常 BCG (R 型) ニヨル場合ト異ナル。ソノ差異ハ前者ニ於テハ非常ニ激シキ性質ヲ有シ且ツ臟器殊ニ接種家兎ノ肺、肝、脾臟ノ正常構造ト比シ甚シキ變化ヲ起シテキル故ニソノ 傷害ハ著シク大テアルトイフコトデアル。

(京府大、館石抄)

赤血球ハ抗結核性免疫ニ際シ役割ヲ演ズルモノナリヤ

Foma et Garaguli: Les globules rouges jouent-ils un rôle dans l'immunité anti-tuberculeuse?

(Comptes rendus d. Séances d. l. Société de Biologie Tome CXVIII, Ne. 15, 1935.)

赤血球ガ抗結核性免疫ノ主要産地デアリ。且ツ免疫物質ガ細胞自體ニ大量含有証明セラル、(カロール、スベングラーノ唱導)コトハ學者ノ認メル所デアル。著者等ハ結核治療ニ對シ豫メ赤血球中ノ結核抗体ノ存在ヲ檢索スルコトノ肝要ナルヲ提唱セリ。ソコデア補體結合ノ方法、「ツベルクリン」ニ對スル抗体ノ中和能、天竺鼠ノ實驗の結核ニ對スル治療の效果ニヨリ檢索ヲ進メタルニ次ノ結果ヲ得タリ。

結核患者或ハ實驗の感染動物或ハ BCG ヲ接種シタルモノ、赤血球ハカルメット並ビニマーソルノ摘定法ニヨリ證明シ得ラレル結核性抗体ノ痕跡ガニ有シナイ。「ツベルクリン」ニ對シテノ中和性物質モ含有シナイ。又同血球ハ天竺鼠ノ實驗の結核ニ對シ治療の又ハ遲延の效果ヲ現ハサヌ。

(京府大飯塚内科、館石抄)

非結核性重篤傳染性疾患ノ經過中尿ニヨル結核「ビールズ」ノ排泄ニツイテ

Nègre L et Toisier J: Elimination du virus tuberculeux par l'urine au cours d'infections aiguës non tuberculeuses.

(Comptes rendus des Séances de la Société de Biologie, Tome CXIX, No. 23, 1935.)

Troisier et Monaldi ハ Koch 菌ハ明カー Löwenstein ノ方法ニヨツテ非結核性重篤疾患ノ經過中非結核患者血液中ニ約 4%ニ於テ現ハレルトイフコトヲ發表シタガ著者ハ之ニ注意シテ非結核患者ガ重篤ナル疾患ニカ、レル經過中尿中ニ結核「ビールズ」ノ排泄セ

ラザルカニツキ檢シタルニ、實驗ノ結果ヤハリアル障礙アル生體內ニ存在シテアル結核「ビールズ」ハアル熱性疾患ノ經過中ニ腎臟カラ尿中ニ排出セラル、モノト想像サレル。(京府大飯塚内科、館石抄)

人結核菌色素即チ「フチオコール」ノ螢光ニ關スル觀察

Dhéré(CH): Quelques observations relatives à la fluorescence du phthiocol, pigment du bacille tuberculeux de l'homme.

(Comptes rendus Séances de la Société de Biologie Tome CXIX, No. 23, 1935.)

「フチオコール」ハ 1933 年 R.-J. Anderson ニヨリ發見サレ次テ合成ニ成功シタ。著者ハ結核菌ノ螢光ノ分光像ニツキ數年來研究シテオツタノデアルガ、コ、ニ「フチオコール」ノ螢光ニツイテ各方面ヨリ檢索スル必要ヲ感シタ。

「フチオコール」ハ固形ノ狀態テハ少シモ認メラルベキ螢光ヲアラハサヌ。「エーテル」、「クロロホルム」、「アルコール」、醋酸溶液ハ紫及ビ紫外線ニ富ム中ニ置クト最モ著明ニ螢光ヲ現ハス。

「フチオコール」ノ「エチールエーテル」液中ニ「アルカリ」性及ビ少量ノ水ヲ加ヘ空氣ニフrezニ硝子棒テマセル。次ニアル時間放置スル。スルト螢光ハ現ハレ、「エーテル」層ノ中テハ一般ニ非常ニ強イ。一般の色彩ハ斷然紫色デアル。

Anderson ガ發表シタヨウニ「フチオコール」ハ水ニ溶解性デアリ「アルカリ」鹽ヲ以テ濃赤色彩ヲ呈ス。

(京府大飯塚内科、館石抄)

中間哺乳類型結核菌ノ存在ニツイテ

Valtès(J.) et van Deinse(F.): Sur l'existence de bacilles tuberculeux de type mammifère intermédiaire (Comptes rendus des Séances de la Société de Biologie, Tome CXIX, No. 23, 1935.)

培養基ノ pH ヲ變化スル様式ニヨリテ著者ノ檢査シタ菌株ハ人型菌ト牛型菌トノ間ニ屬スル中間型ノ結核菌デアルト結論シテヨカラウト信ズル。

人型菌ハ一般ニ環境ノ pH ヲ最初カラ連續的ニ酸ノ方向ニ轉ジ、牛型菌ハ反對ニ最初カラ環境ノ「アルカリ」性變化ヲ來スノデアルガ、コ、ニ逃ブル菌株ハ最初「アルカリ」性ノ方向ニ pH ヲ變化シ(約 20 日後 pH 7.8—8)、次ニ反應ハ再ビ酸性化スル。約 30 日後ニ pH 6.6 トナル。(京府大飯塚内科、館石抄)

大便酸性化後培養並ニ接種ニヨル結核菌ノ研究  
Carnot(P). Lavergne(II). et Fiehrer(A).: Recherches  
du bacille tuberculeux par culture et inoculation  
Après acidification des selles  
(Comptes rendus des Séances de la Société de Bio-  
logie, Tom. CXIX, No. 23, 1935.)

糞便中ニオケル結核菌ノ直接檢索ヲ報ジテオレモノ  
ハ少クナイガ、ソノ率ハ弱キ%デアル。著者等ハ培養  
並ニ接種ノタメ、大便ノ酸性化ニヨル比較的無菌  
ノ材料ヲ利用スルコトヲ試ミタ。

培養一大便ハ非常ニ注意シ摺鉢ケ無菌砂ヲ混入シ搗  
碎スル。次ニ酸ノ15%ノ割合ニ混合物ノ濃度ヲ得ル  
タメニ2/3ノ比テ20%ノ硫酸ヲ加ヘル。接觸ノ時間  
ハ1時間室温ニ置ク。而シテ混合物ニ無菌「リトマス」  
ノ1滴ヲ加フ。30%曹達テ中和次ニ約4滴ヲ Loew-  
enstein ノ筒ニヨツテ播種スル。

接種一同様ナ酸性化後「モルモット」ニ接種スル方法ハ  
非常ニ多數發表サレタ。然シ酸性化ノ時間(單ニ3/4  
時間)ヲ短縮シテ陽性率ヲ改良シウル。「モルモット」ノ  
皮下ニ混合物ノ2--3ccヲ接種スル。

要スルニ適當ナル時間酸性化後培養並ニ接種ニヨル  
大便中結核菌ノ檢査方法ハ菌ガ非常ニ少ナイ腸障  
碍ノ場合ト同様ナ陽性成績ヲ以テ大便中カラ普通ノ  
菌ノ殆ンド全部ヲ除去スルコトガ出來ル。

サレド斯カル培養並ニ接種ノ成績ハ腸ニ於ケル局  
所性障碍ニ決定ツケルコトハ出來ナイトイフコトヲ  
記憶シテオカネバナラス。何トナレバ得ラレタ菌ハ嚥  
下シタルモノノ或ハ胆汁性又ハ腸性ノ何レテモアリ  
ルカラデアル。ソコテ此ノ技術ハ大便中菌ノ存在ガ嚥  
下サレタ喀痰ニヨツテ排泄サルルコトニヨツテ生ジ  
テキタモノテナイヤウナ場合ニ屢々アル價値ヲモツ  
テキル。(京府大飯塚内科、館石抄)

#### 結核菌ノ分解ニ及ボス pH-影響

Spanier: Influence du pH sur la lyse des bacilles  
tuberculeux.

(Comptes rendus des Séances de la Société de Bio-  
logie, Tome CXIX, No. 23, 1935.)

著者ノ實驗ニヨレバ酸ノ結核菌ニ對スル分解作用ノ  
頂點ハ pH=3 デアル。酸ノ領域テハ分解作用ノ最小  
限ハ pH=2.0 デ見ラレタ。次ニ2以下ノ pH テハ分  
解作用ハ再び非常ニ強クナル。

(京府大飯塚内科、館石抄)

#### 結核海癩ノ副腎、腎臟及ビ尿中ニ於ケルコッホ菌 ノ研究

A. Gaiginsky et I. Petresco: Recherche du bacille  
de Koch dans les Capsules surrénales, les reins et  
l'urine des Cobayes tuberculeux. (C. R. des Séances  
de la Soc. de Biol., Tome CXIX, No. 16. p. 44,  
1935).

結核海癩ニ於テ腎臟ノ侵害稀ナル事實ヨリ著者等ハ  
毒力アル細菌ノ侵入ニ對シ感受性アルモノナリキヲ  
檢セリ。即チ43匹ノ海癩ニ Vallée 株ノ牛型結核菌  
ヲ0.01mgr. ヨリ0.001mgr. ノ分量ニ接種セリ(16匹  
ハ皮下ニ17匹ハ靜脈内ニ10匹ハ氣管内ニ)、接種後  
數週ニシテ解剖シテ發性結核、血性腹水ヲ認メ、該動  
物ノ腎臟副腎ヲ摘出檢スレドモ肉眼上結核性侵蝕ヲ  
見ズ。又染色標本ニヨリ調べタルモ、陰性ナリキ。尙  
膀胱穿刺ニヨリ尿ヲ無菌ノニトリ出セリ。著者等ハ腎  
及ビ副腎ヲ Löwenstein 氏法ニヨリ分離粉狀ニシ10  
%硫酸ニテ處置セリ。粉狀物ノ一部ハ Löwenstein 氏  
法ノ多數ノ管ニヨリ播種セリ。尙粉狀物ニ4.5ccノ生  
理の食鹽水ヲ附加シ他ノ海癩ニ接種セリ。尿ハ Lö-  
wenstein 氏法ニヨリ直接ニ播種シ、殘部ハ他ノ海癩ニ  
接種セリ。何レモ培養ハ陰性ニシテ他海癩接種モ陰性  
ニ了レリ。コレラノ結果ハ d'Arloing, L. Thévenot  
及ビ A. Roques ノ結果ト一致セルモノナリ。

(京府大飯塚内科、柳下抄)

「ツベルクリン」反應ニ對スル正常並ニ「アンチ  
ツベルクリン」血清ノ作用、生「ツベルクリン」ト  
「エキソツベルクリン」(E. T. F.)トノ比較使用

Enzo Valcarenghi: Action des sérums normaux et  
antituberculeux sur les réactions à la tuberculine.  
Emploi Comparatif de la tuberculine brute et l'  
(exotuberculine)). (E. T. F.) (C. R. des Séances de  
la Soc. de Biol., CXIX, No. 17. p. 153, 1935.)

著者ハ生「ツベルクリン」ト、「エキソツベルクリン」  
Finzi E. T. F. (人及ビ牛類ノ Mycobacterium tuber-  
culosis ノ菌體外毒素ヨリ製セルモノ)ヲ用ヒタリ。即  
チ健康家兎及ビ海癩ノ眼結膜囊中ニ、「ツベルクリン」  
ト結核動物血清、或ハ E. T. F. ト結核動物血清トノ  
混合物ヲ2—3滴點眼シテ反應ヲ見タルニ、Mycobacterium tuberculosis ノ菌體外及ビ菌體內毒素ト「アンチツベルクリン」血清ニヨリ惹起サレタル消散性反應トハ異ナルモノナリ。コレハ非特異性物質ニヨリ惹

起サレタル局所ノ非特異性刺激性反應ナリト考ヘラ  
ル。(京都府醫大飯塚内科、柳下誠抄)

流産菌ノ培養濾過液ニヨツテ處置サレタル結核  
海狸ノ血清帶反應

W. Sarnowicz: Phénomène de zone obtenu avec le  
sérum de Cobayes tuberculeux traités par des filtrats  
de cultures de Bacillus abortus. (C. R. des Séances  
de la Soc. de Biol., Tome CXIX. No. 17. p. 167,  
1935.)

バンクノ生菌又ハ死菌ヲ接種セル結核動物ノ血清帶  
反應 *phénomène de zone* ヲ呈スルハ吾人ノ知ル所ナ  
リ。

著者ハ

a) 結核菌感染海狸ニバンク菌濾液ヲ該動物ノ結核病  
竈ニ注射セルニ其血清ハ可ナリノ稀釋度迄凝集作用  
ヲ表ハセリ(300倍以上)。然ルニ此凝集作用ハ濃度ノ  
大ナル所ニテハ起ラズ(30倍—100倍)。

b) BCG 又ハ結核死菌ヲ注射セル動物ニ於テハ該凝  
集現象ハ稀釋度ガ非常ニ少クモ起ルナリ。即チ帶反  
應ハノビルナリ(30倍迄)。

c) 帶反應ノ強度ハ結核感染ノ程度ニ關係スルモノナ  
リ。然レ共亦動物各個ノ差異ニ關係スルモノナルヲ知  
ル。(京都府大飯塚内科、柳下抄)

互復氷結シテ生ゼシメタル溶解物 Lysat ニヨル  
BCG(顆粒性、線狀性、非抗酸性、抗酸性菌)及ビ  
結核菌ノ種々ナル發育過程ノ培養方法

E. Grasset: Procédé de culture des différents stades  
évolutifs du bacille tuberculeux et BCG(granulaire,  
filamentux et bacillaire non acido-résistant et acido-  
résistant), à partir de lysats obtenus par Congelation  
répétée. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., T.  
CXIX. No. 18. p. 261, 1935.)

著者ハ BCG 菌、結核生菌ヲ互復氷結シテ細菌溶解性  
物質ヲ得タリ。即チソートン氏及ビ適當ノ培養器ニ培  
養スル時ハカカル細菌ハ容易ニソノ發育ノ種々ナル  
過程ヲ呈スルモノナリ。非抗酸性分離顆粒型ヨリ非抗  
酸性細菌トナリ、遂ニ抗酸性原型細菌ニ迄復歸スルモ  
ノナリ。(京都府大飯塚内科、柳下抄)

「パラフィン」ニ包埋サレタル結核菌注射後ノ實驗  
動物ニオケル「アレルギー」状態ノ特性

E. Couland: Caractères de l'état allergique observé  
Chez les animaux de laboratoire après injections de

bacilles de Koch enrobés dans la paraffin. (C. R.  
de Soc. de Biologie. No. 19. T. CXIX. 1935. p. 368.)

著者ハ溶液「パラフィン」ヲトカシツ、生結核菌(人牛  
又ハ BCG)又 120°C. 60 分間殺菌シタル結核菌ヲ前  
記ノ「パラフィン」ニ包埋凝固セシメタリ。コレヲ再ビ  
熱ニヨリ溶解シ動物(家兎又ハ海狸)ノ皮下又ハ筋肉  
内ニ注射セリ。斯クシテ 23—30 日間ニシテ該動物ハ  
「アレルギー」ノ状態トナレリ。即チ「ツベルクリン」ニ  
對シ過敏トナル。過敏性ノ期間ハ不定ナルガ少クトモ  
數年ハ續クナラン。動物ニ注射セル「パラフィン」ハ淋  
巴腺中ニ運バレ、カクテ「アレルギー」ノ状態ヲ構成ス  
ルモノナリト。(京都府大飯塚内科、柳下抄)

BCG ノ R 及ビ S 種ヲ經口ノニ與ヘタル海狸ニ於  
ケル「ツベルクリン、アレルギー」及結核菌ノ糞便  
排出

Konrad Birkhaug: Elimination fécale des bacilles  
tuberculeux et allergie tuberculique chez les coba-  
yes inoculés per os avec les variétés R et S du  
BCG. (C. R. de Soc. de Biologie. No. 19, 1935. T.  
CXIX. p. 370.)

著者ハ海狸ニ經口ノニ BCG ノ R 及ビ S 種ヲ與ヘ「ア  
レルギー」反應ノ差異ヲ檢セリ。即チ健康ナル一群ノ  
海狸ニ R 種ヲ 3 日間與ヘ他ノ一群ニハ S 種ヲ與ヘタ  
リ。R 種ヲ以テセル海狸ハ體重ニ變化ナク S 種ノモノ  
ハ減少ヲ見タリ。海狸ノ糞便ニ操作ヲ加ヘ Löwen-  
stein 氏法ニヨリ培養セルニ R, S 兩種菌ハ最初ノ 8  
日間ハ大量ニ排泄セラル、ヲ知レリ。R 種接種ノ海狸  
糞便中ノ菌排泄ハ 12 日後ハ陰性トナリ。S 種ノモノ  
ニアリテハ不定ニシテ接種後 5 ヶ月ニオイテモ菌排  
泄ヲ見タリ。「ツベルクリン」反應ヲ見ルニ R 種實驗海  
狸ニアリテハ一部ノモノニハ 28 日後反應陽性トナリ  
發赤腫大ヲ見タルモ Necrose ハ見ラレザリキ。コノ  
反應ハ漸次(128 日後)消退セリ。S 種ノモノニアリテ  
ハ「ツベルクリン」反應陽性トナリ。74 日後ニハ發赤腫  
大ノ中央ハ Necrose トナリ。何レモ時日ノ經過ト共  
ニ反應ハ強大トナレリ。サレバ BCG ノ S 種ヲ經口的  
ニアタフル時ハ「ツベルクリン」過敏性ヲ附與シウル  
事ヲ指示スルモノナリ。(京都府大飯塚内科、柳下抄)

人種結核菌 S 種ノ大量ヲ猿類生體內即チ靜脈内  
ヨリ注射シタルモノノ肺臟ノ組織學の所見

P. Armand-Delille et Françoise Bloch: Etude des  
lésions histologiques pulmonaires provoquées chez

le Singe par des injections in situ on intraveineuses à dose élevée d'une Souche S de Bacille tuberculeux humain, (C. R. de Soc. de Biologie. No. 19, 1935. T. CXIX. p. 384.)

著者ハ人種結核生菌Sノ可ナリノ大量ヲ猿類ノ靜脈内ニ注射シ肺臟所見ヲ見タルニ大ナル變化ヲ認メズ、只淋巴球細胞ノ浸潤反應ヲ見タルノミ、コノ所見ハBCGニヨルモノニ類似ス、サレバS種ハ人結核菌中ニ於テモ毒力ノ微弱ナルモノニシテ大量皮下注射ヲ行フモ死ヲ招來セズ肺臟ニ於テモ不定ノ反應ヲ呈シ間モナク消散スルモノナリ。

(京府大飯塚内科、柳下抄)

結核ノ結合反應ニ於ケル Ch. Auguste ノ方法

Kurt Meyer et Huguette Froyez-Roederer: Le procédé de Ch. Auguste Jans la réaction de fixation de la tuberculose, (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. CXIX. No. 19. p. 390.)

著者ハ 133 例ノ結核患者血清ニツキ Besredka ノ原法ト Ch. Auguste ノ改良法トヲ併セ用ヒ、實驗ヲ行ヘリ。非特異性ノ本結合反應ハ Auguste 氏法ニヨリ更ニ確實性ヲオビルニイタレリ。サレド實用上ノ價値ハ明ラカナラズ。(京府大飯塚内科、柳下抄)

反復氷結ニヨル BCG 菌並ビニ結核菌ノ生菌及ビ「フォルマリン」加菌ノ lysat (溶解物) ニヨリ免疫サレタル馬血清ノ雲絮性ニツキテ

E. Grosset: Sur les propriétés floculantes des sérums de Chevaux immunisés au Moyen de lysats vivants et formolés obtenus par BCG et du bacille tuberculeux, par Congélation répétée, (C. R. de la Soc. de biol., 1935. t. CXIX, p. 400. No. 35.)

著者ハ BCG 菌及ビ結核菌ヲ反復氷結シ該菌ノ變形菌ヲ培養シ得タリ。コレヲ氷結變形菌ノ溶解物(Lysat)ノ「アンチゲン」及ビ同ジク「フォルマリン」加菌ノ lysat ヲ以テ動物(馬)ヲ免疫シ、ソノ血清ノ性質ヲ研究セリ。即チ BCG 菌、結核生菌ノ Lysat ヲ以テ免疫セル馬ノ血清ヲ見ルニ注射 4—6 回ヨリ血清ト同ジ lysat ナル「アンチゲン」ヲ合スル牛ハ白乳色ノ帶ヲ見途ニ雲絮狀ノ沈澱ヲ來ス。次ニ同ジク反復氷結セル同「フォルマリン」加菌ノ Lysat ヲ以テ免疫セル馬ノ血清モ亦同ジ Lysat ナル「アンチゲン」ト合スル牛ハ沈澱ヲ來セリ。(京府府醫大飯塚内科、柳下誠抄)

膿結核ニ對スル一知見

Dr. Vitus Deppsich: Ein Beitrag zur Tuberkulose der Scheide (Zentralblatt für Gynäkologie 59 Jg. 21. Sep. 1935. Nr. 38.)

著者ノ報告セル陰結核患者ハ 22 歳ノ未産婦。初潮 13 歳不規則ニシテ 6 年前ヨリ無月經ナリ。一般榮養狀態ハ中等度ナルモ肺臟ニ結核性所見ヲ認ム。11—20 歳迄ニ肺結核療養所ニ居タルコトアリ。1 年前ヨリ黃膿様帶下及ビ排尿時灼熱感ヲ訴ヘ、又性交ニ際シ輕度ノ苦痛アリ。逸ブル所ニ依レバ患者ノ夫ハ健康ナリト云フ。

婦人科の所見トシテ、小陰唇ヲ移開スルニ陰莖柱端ト後連合トノ間ニ右側ニ偏シテ、ソノ邊緣鋸齒狀ニシテ多少ノ陥入ヲ有スル一箇ノ潰瘍アリ、ソノ大サ「マルク」大、其ノ表面ハ頑固ナ苔被ヲ以テ蔽ヘレ、周圍ニ全ク輕度ノ表在性浸潤アリ。鼠腺淋巴腺ノ腫脹ナシ。潰瘍以外ノ腔壁及ビ子宮部異常ナク、直腸診ニ依ルモ結節ヲ證明セズ。外子宮口ハ小ニシテ癒著アリ子宮體ハ漸ク鳩卵大、前屈移動性アリ。右附屬器ニ由來スルト考ヘラル鵝卵大囊腫アリ。其ノ移動性ハ僅カニ存ス。左側ハ異常ナシ。兩側結締織ハ多少緊張スルモ柔和ナリ。

潰瘍部組織ヲ鏡檢スルニ「ラングハンス」巨大細胞ヲ有スル類上皮細胞性結核ナリ。著者ノ例ハ外陰部ニ波及セル結核性陰潰瘍ニシテ、泌尿器直腸ニハ結核ナク、又シヨツトレンデルノ如ク結核菌ヲ病竈ニ證明セザリシモ、ワイベルノ稱フル血行性移轉ヲ認メ肺臟ヲ原發ナリトセリ。

治療法トシテ 4—6 週毎ニ 20—30%ノ皮膚紅斑量ノ「レ」線放射シ 6 回施セルモ未ダソノ效果ヲ認メズト述ブ。(名大産婦人科、山原抄)

結核妊婦ノ人工中絶問題

前原俊男：(産科ト婦人科、第三卷、第十一號)

著者ハ結核妊婦ノ人工中絶ニ關スル綜説ヲ試ミタル後、治療方針トシテ次ノ如ク記載セリ。豫メ患者ノ自覺の症狀並ニ他覺の所見等ヲ精査シ、「レントゲン」線檢査結核反應、合併症ヲ調査シ少クトモ入院一週間以上ノ嚴格ナル安靜ト適當ナル治療法ヲ試ミツ、觀察シ、何等病勢鎮靜ノ微無ク寧ろ活動性結核ノ微候ヲ示ス場合ニアリテハ爰ニ始メテ人工中絶ヲ行フ。要約トシテ可及的妊娠第 4 ヶ月迄ヲ選ブコト。生殖初期殊ニ第 1 回ノ妊娠ニ合併セル結核ハタトヘ輕症ナルカノ如ク見ユルトモ不良ナル經過ヲ取ル者多キヲ以テ可



及の妊娠中絶ヲ行フヲ最善ノ策ナリトセリ。

(名大産婦人科、山原抄)

### 骨盤結核(Schambeincaries)ニ就テ

石井碩：(産科と婦人科、第三卷、第十一號)

患者ハ26歳ノ婦人ニシテ臨牀的ニ、子宮内膜炎、兩附屬器炎、不妊症ノ診断ノ下ニ開腹シ、北海道地方ニ地方的特異性トセル無熱性内生殖器及ビ腹膜結核症ナルヲ知リタリ。術後30日目、歩行時又ハ起坐及ビ性交等ノ骨盤ノ動揺時ニ於ケル疼痛ヲ主訴トシ再ビ來院ス。陰阜、大腿内側、鼠蹊部、臀部等ノ瘻孔或ハ流注膿瘍ヲ認メザリシモ「レントゲン」検査ノ結果、恥骨「カリエス」アルヲ發見セリ。著者ハ本例ノ如ク本疾患ニ瘻孔、流注膿瘍ヲ伴ハザル極メテ珍稀ナル症例アルヲ以テ、婦人科の診断ニ際シ其ノ主訴ニ對シ大ニ考慮ノ必要ヲ附言セリ。(名大産婦人科、山原抄)

### 小兒ニ於ケル粘膜炎瘡ニ就テ

Arnold Jörgensen: Über Schleimhautlupus bei Kindern. (Zeitschrift f. Laryng. Rhin. Oto. u. ihre Grenzgebiete. 1935. Bd. 26. H. 3.)

著者ハ Finseninstitut ニ於テ 1900—1935 年迄ニ於ケル、15 歳以下ノ粘膜炎瘡患者 88 例ヲ集メ、小兒ニ發現スル頻度、罹患部位、小兒ニ於テモ女性ハ男性ヨリモ罹患スル事多キヤ、臨牀的所見及ビ形態學的性質ハ成人ノ場合ト同様ナルヤ、豫後ハ如何、トイフ問題ニ就キ調査シ、次ノ結果ヲ得タリ。

女性ハ成人ノ場合ト同様男性ノ約 2 倍ノ罹患數ヲ示ス。罹患部位ハ、鼻腔ヲ第一トシ、口腔、咽頭、喉頭ノ順序ナリ。殊ニ口腔、咽頭、喉頭ハ成人ノ場合ノ約二倍前後ノ罹患率ヲ示ス。

鼻腔ニ於テ侵サル部位ハ下甲介及ビ鼻中隔最モ多シ。口腔ニ於テハ齒齦、懸壜垂、前口蓋、頬部内面、咽頭ニ於テハ扁桃腺、後壁、軟硬口蓋背面、鼻咽腔。喉頭ニ於テハ其ノ入口、會厭軟骨、真假聲帶ニ來タル。小兒ニ於テ鼻腔ノ屢々侵サルハ空氣感染デモナク、又直接指頭ニヨル感染デモナク、Vasogen ノモノナラント述ブ。血管多キ下甲介中部ニ多キ故ナリ。小兒ニ於テ皮膚瘡瘡ナク粘膜炎ニ單獨ニ來タル事成人ノ場合ノ約二倍ナリ。

年齢上ヨリノ罹患状態ハ 6—7 歳頃少シク増加シ 11 歳以後急ニ増加ス。コハ 6—7 歳頃ハ學齡期ニシテ感染ノ機會多ク、11 歳以後ハ「ホルモン」性新陳代謝ノ變化ニヨリ、免疫生物學的反應ノ減退ニヨルナラント述ブ。

粘膜炎全般ニ亙リ罹患セル者 88 例中 5 例ニシテ、10—13 歳ノ間ニアリ。

臨牀的所見ハ成人ノソレト異ナラズ。只成人ヨリ罹患部位ノ擴大スル傾向ヲ有ス。コハ小兒ノ粘膜炎血管ニ富メル爲ナラント説明セリ。常ニロ氏反應ハ微毒トノ類症鑑別上重要ナルモノナリ。

治療法、(1)全身状態ヲ良好ナラシムル事、(2)外科的ニ除キ得ル場合ハ切除シ、ソノ周圍ヲ焼灼ス。(3)光線療法トシテ炭素弧光燈浴ヲ毎日又ハ隔日ニ 1 時間ノテ 24—40 回行ヒ、2—4 週間ヲ置キ繰返ス。

(東大耳鼻科、高橋抄)

### 紅斑性狼瘡ノ Antileprol 療法

Svend Lomholt: Antileprolbehandlung bei Lupus erythematoses (Dermat. Wschr. Bd. 101. S. 817).

Antileprol ヲ以テ紅斑性狼瘡 31 例ノ治療ヲ試ミタルニ卓效ヲ奏セルヲ以テ此處ニ報告スル。

Antileprol ハ油劑ナル故注射直前ニ次ノ様ナ方法ヲ Emulsion トナシ解膜内或ハ筋肉内ニ注射スルノデアアル。先ヅ 10ccノ注射器ヲ以テ 8%ノ Alkohol ヲ 9cc 吸引シ、目的ノ Antileprol (0.5—2.0) ヲ吸引スル。之ヲ 50ccノ Erlenmeyer ノ Kolben ヲ斜ニ持チ底面ヘ向ツテ放出スル。再ビ之レヲ吸引シテ放出シテ之ヲ繰返ス事 5 回ニ及ビ所要ノ Emulsion ヲ得テ之ヲ使用スル。

上記ノ Emulsion ハ大多數ニ於テハ 1—2cc 解膜内ニ注射シ、少數ニ於テハ 1cc 筋肉内ニ注射シタ。注射ハ多ク毎日行ツタガ少數ニ於テハ 1 週 2—3 回ノ割合行ツタ。又注射ノ總回数ハ 8 回ヨリ 62 回ヲ平均 28 回アツタ。

副作用ハ大イシタ事ハナイガシバシハ高熱ヲ發シ、極ク少數ニ於テハ極メテ輕度ニ頭痛ヲ訴ヘタ。筋肉内ニ注射セルモノハ局所ニ疼痛ヲ感ジタケレドモ、1%ノ Anaesthesin ヲ加フル事ニ依リ之ヲ輕減シ得タ。多クノ患者ハ治療繼續中倦怠感アリ。治療ノ中止ト共ニ去ツタ。是等ノ患者ニハ總テ「フィンセン」光線療法(Finsen Kohlenbogenlicht-Behandlung)ヲ併用シ、2 例ニ於テハ雪狀炭酸(Kohlensäure Schnee)ヲ併用シタ。

是等ノ治療成績ヲ總括スレバ、11 例ハ完全ニ治癒シ、12 例ハ非常ニ良クナリ、7 例ハヤ、良好、1 例ハ全ク効果がナカツタ。浸潤ト充血ハ最モ早く去ルケレドモ、痂皮、落屑ハ容易ニ去ラズ。之等ニ對シテハ局所

療法ヲ併用シタ。

最後ニ Finsen ノ Kohlenbogenlicht-Behandlung ノ併用ハ本治療ヲ補足スル效果アリ。

(千葉醫大皮膚科、齋藤抄)

石橋健夫：鳥型結核菌ニ因ル淋巴腺腫並ニ Parapsoriasis 様結核疹(本邦ニ於ケル人間ノ鳥型結核第 2 例)

Die von Geflügeltuberculose-Bacillus verursachte allgemeine Drüsentuberculose mit universellen Parapsoriasisformen Tuberculiden (Dermat. Wschr. Bd. 101. S. 1212.)

37 歳ノ患者ニシテ 3 年來全身ニ Parapsoriasis (殊ニ Pityriasis lichenoides chronica) ノ如キ皮疹ヲ有シ、且ツ諸處ノ皮下淋巴腺ノ顯著ニ腫脹セルモノニ就キ、一淋巴腺ヲ別出シテ一種ノ抗酸性菌ヲ培養シ、動物試験(家兎、天竺鼠、家鷄)ニ由リ其鳥型結核菌ナルコトヲ確メ、又ソレヨリ製セル Tuberculin ノ該患者ニ於テ強度ノ皮内反應ヲ惹起スルヲ看、其他病理學の所見、症狀、經過等ヲ併セ考ヘテ本症ノ原因ノ該菌ニ在ルコトヲ判定シタ。 Gerson-Sauerbruch-Herrmannsdorfer ノ法ニ準ズル食餌ト對症の膏藥療法(硫化加里浴、Mitigal 塗布)トニヨツテ皮疹が輕快スルノミナラズ、腫脹淋巴腺ノ一定程度ノ收縮ヲ來シタ。本例ヲ以テ鳥型結核菌ニ因ル淋巴腺腫ト診斷シ、其皮疹ヲ以テ之ニ因スル Allergie 性反應(所謂腺病性苔癬ノ一異型)ト見做スヲ以テ妥當トスルト考ヘル。

人間ニ於ケル鳥型結核症ハ稀有ナモノデ、本邦テハ我教室(東北帝大、皮膚科)ノ佐藤氏以前ニ報告ガ無イ様ニ思ハレル。世界文獻ニ於ケル 50 許リノ症例ハ、皮膚疾患ノ他ニハ Hodgkin 氏病様ノ症狀ノモノ、骨髓性白血病、赤血球過多症、腎臟結核ナドテ、肺結核ニ於テ確實ニ鳥型菌ヲ證シテ其原因ト判定シタモノハ無イ。唯喀痰カラ直接或ハ間接ニ之ヲ培養シタ例ガ有ルバカリテアル。但シ生前全身性結核ト云フ診斷ガ附イテ死後屍體ヲ解剖シテ脾又ハ腸間膜カラ鳥型菌ヲ培養シタ場合ハ再三アル。人間ニ於ケル此種ノ結核ノ最モ多キヲ占ムルハ皮膚結核症テ我々ノ例ヲ加ヘテ文獻上 16 例ヲ數ヘル事ガ出來ル。皮膚結核ニ於テハ典型の人類結核菌ノ他ニソノ異型或ハ牛型及ビ其異型ノ之レガ原因タル事稀テナイノハ亦嘗テ佐藤氏ノ論シタ通りテアリ、其上鳥型菌ニ因ルモノモ甚ダ稀有ト云フモノテナイトスレバ、原因學上皮膚結核ハ甚ダ

興味アル對象ダト云ハネバナラヌ。是等文獻上ノ人間鳥結核症ノ原因ヲ突キトメタノハ Loewenstein ニ由ル事カナリ多イ。其鑑定ノ同氏ニ出ヅル事多イノハ畢竟同氏ノ許テ人間ノ病的材料カラスル結核菌ノ培養ガ盛ニ行ハレテ居ルニヨルト謂ツテヨカロウ。故ニ上記ノ諸症殊ニ皮膚結核ニ遭遇スル毎ニ、一々其原因菌ノ培養ヲ施シタナラ、少クトモ皮膚結核ノ範圍ニ於テハ尙多クノ鳥型菌症ガ證明セラレルデアロウト思フ。診斷上鳥結核菌カラ作ツタ Tuberculin ガカ、ル場合ニ他種ノモノヲ發見スル高度ノ反應ヲ呈スル事ハ特記スベキ事テアル。(千葉醫大皮膚科、齋藤抄) 齋藤附言：同論文ハ東北醫學雜誌、第 18 卷、第 3 册、203 頁ニ在リ。

紅斑性狼瘡ヲ伴ヘル兩脚ノ對照の尋常性狼瘡

G. Frank: Symmetrical tuberculous lupus of both legs combined with lupus erythematosus (The urologic and cutaneous review. Vol. 39. p. 177.)

患者ハ 27 歳ノ男子。15 年前前脚ニ傷害ヲ受ケタ後青色、紅色ノ斑點ヲ生ジ、5 年前ヨリハ一部潰瘍トナツタ。現在ハ兩脚ノ前外側ト内側ノ一部ニ淡紫紅色斑ガアリ、周邊ハ褐色乃至黑色ニ著色シ、斑面ハ剝離シ難イ鱗屑ヲ有シ萎縮ノ痕跡ガアル。大サハ櫻桃大テ數ハ約 15。之レト離レテ特ニ脛骨緣ニ鮮紅色斑並ニ多クノ潰瘍ヲ有シ、硝子壓ニヨリ潰瘍ニ近ク黄橙色ノ點ガ殘ル。此部分ノ組織ハ結核像ヲ示シ、ワ氏反應陰性、以上ニ依リ表題ノ如キ診斷ヲ下シタ。

治療法ハ X 線、Finsen 燈照射ヲ行ツタガ非常ニ效果ガアツタ。唯 X 線療法ハ途中テ中止ノ止ムナギニ到リ最後ノ結果ヲ見ル事ガ出來ナカツタノハ極メテ遺憾トスル處テアルガ、X 線療法ハ非常ニ效果ガアツタ様ニ思ツタ。(千葉醫大皮膚科、齋藤抄)

紅斑性狼瘡ノ傷害性起原問題ニ對スルニ、三ノ注意

G. Frank: Some remarks on the subject of lupus erythematosus of traumatic origin (The urologic and cutaneous review. Vol. 39. p. 329.)

紅斑性狼瘡ハ結核性テアルトモ云ハレルガ、連鎖狀球菌ガ原因テアルト云ツタリ、又傷害性起原ヲ稱ヘタリ、更ニ種々ノ原因テ起ルーツノ症狀ニ過ギストモ云ハレル。余ノ最近經驗シタ 6 例ハ皆結核ヲ證シ得ス。昆蟲刺傷ニ因ルノテ、確ニ傷害性起原ノモノテアルト思ハレル。(千葉醫大皮膚科、齋藤抄)

ブク氏類肉腫ダリエールシ氏類肉腫、バザン氏硬結性紅斑及ビ凍瘡様狼瘡ノ同一性ニ就テ  
S. Grschelin: Concerning the identity of sarcoid Boeck, Sarcoids Darier-Roussi, erythema induratum Bazin and lupus pernio. (The urologic and cutaneous review. Vol. 39. p. 477)

バザン氏硬結性紅斑ダリエールシ氏類肉腫、ブク氏類肉腫及ビ凍瘡様狼瘡ノ臨牀的竝ニ組織學的見地ヨリシバ同一ノモノト考ヘラレテ居ル。即チ定型的ノモノニ於テハ區別ノ容易ナルケレドモ、時ニハ全ク區別ノ付キ難ナル事ガアル。故ニ若シモ疾病ガ下腿ニアル時ニバザン氏硬結性紅斑ト診断シ、腕或ハ胸部ニ來テ下腿ニ變化ノ無イ時ハダリエールシ氏類肉腫。或ハブク氏類肉腫ト診断スル。一方又同様ノ症状ガ鼻部或ハ指等ニ來タリタル時ハ凍瘡様狼瘡

ト診断スル。

組織學的ニモ同様ノ事ガ云ハレ、自分ハ嘗テ臨牀的ニハブク氏類肉腫ナルガ組織的ニハバザン氏硬結性紅斑或ハ、ダリエールシ氏類肉腫ノ如キ像ヲ呈セルヲ見タ。

以上ノ諸疾患ハ總テ同一ノ原因ニ因ルモノナルトナシ、結核ニ關係アルモノト考ヘラル。從テ Jadasohn, Lewandowsky, Kyrle, Gaus 等ノ提案セル硬結性皮膚結核症(Tuberculos cutis indurativa)ナル名稱ノモトニ一括ス可キテアル。此名稱ノ下ニ一括サル可キ疾患ハ次ノ7ツテアル。1) バザン氏硬結性紅斑。2) ダリエールシ氏類肉腫、3) 散在性結節性類肉腫(Sarcoids nouesées disséminées)、4) 大結節性ブク氏類肉腫粟粒類狼瘡、5) 凍瘡様狼瘡、6) 血管類狼瘡。  
(千葉醫大皮膚科、齋藤抄)

## 一般學術雜誌

大連ニ於ケル小兒結核性腦膜炎トソノ胸部「レントゲン」所見トノ對照の考察

(松浦豊：滿洲醫學雜誌、第22卷、第1號、昭和10年1月)

著者ハ42例。小兒腦膜炎患者(内0—12ヶ月、5例。1—2歳、7例。2—3歳、10例。3—5歳、9例。5—10歳、8例。10—15歳、3例)ノ「レントゲン」寫眞ヲ精査シタルニ、粟粒結核15例、肺浸潤10例テ他ノ大部分ハ氣管枝結核テ、全然所見ナキハ1例ニ過ギナカッタ。泰西ノ報告テハ所見ナイ例ガ相當ニ多イノニ反シ著者ノ例テハ唯1例ニ過ギヌガ、コレハ小兒腦膜炎ノ起ル過程ヲ考エルト決シテ不思議ハナイト云フテキル。而シテ小兒腦膜炎ノ豫防ノ絕對的ノコトハ出來ストシテモ其ノ發生過程ヲ考ヘテ小兒結核ノ早期診断—早期治療ハ其ノ豫防上必要ナル點テアルト附言シテキル。  
(大連、佐々虎雄抄)

人工光線照射ニヨル血清ノ生化學的變化

(第三報)紫外線ノ赤血球沈降速度ニ及ボス影響ニ就テ

(村山實：滿洲醫學雜誌、第22卷、第1號)

著者ハ紫外線照射ノ赤沈反應ニ及ボス影響ヲ研究シテ次ノ如ク結論シテ居ル。

1) 試験管内ニ於テ赤血球ノ沈降速度ハ紫外線照射ニヨツテ促進サレル。2) 紫外線照射自家血清ヲ以テ治

療シタ患者ニ就テ、其治療前後ノ赤血球沈降速度ヲ見ルト治療後ハ減退スルヲ認メル。3) 紫外線照射自家血清ヲ以テ治療シタ患者ニ就テ、其治療前後血液ニ紫外線照射ヲナシ、其沈降速度ノ變化ノ割合ヲ比ベテ見ルト治療後ニ於テハ其赤血球沈降速度ニハ紫外線照射ニヨツテ蒙ル影響ガ減少スル。4) 紫外線照射自家血清療法ハ血液ニ何等カノ變化ヲ與フルモノ、ヤウテアル。

(大連、佐々抄)

「ニンニク」成分ノ血液像ニ及ボス影響

(宮本田守：滿洲醫學雜誌、第22卷、第2號、昭和10年、2月)

著者ハ「ニンニク」カラ一種ノ粉末製品ヲ得夫レノ水溶液ヲ家兔靜脈ニ注射シテ次ノ如キ結果ヲ得タ。

1) 血色素量ハ漸次減少シ、少量注射ノ場合ニハ24時間後ニ稍々恢復スルガ大量注射ノ場合ハ恢復時間ガ延長シ24時間後モ恢復シナイ。2) 赤血球數ハ漸次減少シ少量注射ノ場合ハ24時間後ニ略々恢復スルガ大量注射ノ場合ハ24時間後モ恢復シナイ。3) 白血球數ハ少量注射ノ場合ハ最初減少シテ次ニ著明ナ増加ヲ來シ24時間後恢復スルガ、大量注射ノ場合ハ最初カラ漸次増加シ恢復時間ガ延長シ24時間後モ注射前ト同數マテ恢復シナイ。4) 淋巴球、大單核、「エオジン」嗜好性白血球、鹽基性嗜好性細胞ニハ一定ノ變化ヲ來サナイ。假性「エオジン」嗜好性細胞ノ變化ガ白

血球數變化ノ主ナモノテアル。5) 「ニンニク」粉末ノ作用ハ本物質中ニ含有サル、硫黃燐、又ハ「カルシウム」化合物ノ何レカ或ハ其共同作用ト思ハレル。

(大連 佐々抄)

#### 皮膚結核疹ニ伴フ多價性皮膚過敏症ノ 1 例

(田崎龜夫: 同誌、第 22 卷、第 1 號、昭和 10 年、7 月)

ゴック氏類肉腫兼バザン氏硬結性紅斑ノ 1 例ニ多價皮膚過敏症ヲ認メ諸種ノ檢索ノ結果「エオジノフイリー」、淋巴球增多、赤血球沈降速度促進、副交感神経系統ノ緊張亢進及ビ「トルコ」軟像ノ縮小ヲ證明シ、且ツ本邦文獻ニ記載ヲ見ザル Barber 及ビ Oriol 兩氏ニヨリ提唱セラレタル Proteose 反應ヲ實施シ、本例症ニモ亦陽性成績ヲ得タ。而シテ Proteose ハ「エーテル」ニハ不溶解テアル。

(大連、佐々抄)

#### 大蒜揮發油ノ血液像ニ及ボス影響

(宮本田守: 同誌、第 23 卷、第 2 號、昭和 10 年、8 月)

大蒜カラ抽出シタ粗製揮發油ヲ以テ行ツタ實驗ヲ結論ハ次ノ如クテアル。

大蒜揮發油ヲ家兔靜脈内ニ注射スルト。1) 直チニ呼吸氣ニ強烈ナ大蒜臭ヲ帯ビテ來ル。2) 血色素量ハ大量ノ場合ハ甚シク且長時間ニ亙ツテ、少量ノ場合ハ少ク且比較的短時間内ノ減少ヲ來ス。3) 赤血球數ハ大量ノ場合ハ甚シク且長時間ニ亙ツテ、少量ノ場合ハ少ク、且比較的短時間内ノ減少ヲ來ス。4) 白血球數及ビ其百分率ハ變化ヲ認メラレナイ。(大連、佐々抄)

#### 玄米ノ食習慣ト消化吸収率

(安部淺吉外 4 氏: 同誌、同號)

著者等ハ信用シウル邦人被験者 3 名ニ就テ永キハ 15 ヶ月ニ亙リ表題ニ就テ最密ナル實驗ヲ行フテキル。而シテ其ノ結果、「是等ノ成績ヲ綜合シテ見ルニ玄米ハ如何ナル調理法ヲ以テシテモ亦食習慣ヲ以テシテモ其消化吸収率ノ上昇ヲ期待スルコトハ出來ナイヤウテアル」ト云ツテキル。

(大連、佐々抄)

#### 結核菌及ビ非病原性抗酸性菌ノ「味の素」加 Kirchner 氏培地内發育ニ及ボス色素ノ影響

#### 細菌ノ生體染色知見補遺(其ノ 1)

(福本清: 同誌、第 23 卷、第 3 號、昭和 10 年 9 月)

1) 9 種ノ鹽基性色素及ビ 6 種ノ酸性色素ヲキルヒナー氏液體培養基ニ加ヘ、生體染色ヲ論ズルニ當リ先ヅ之ニ人型、牛型、鳥型各結核菌、「チモテー」菌及ビ「K151」菌ヲ培養シ是等抗酸性菌ト色素トノ生物學的

關係ヲ檢セリ。2) Safranin, Rosanilin, Fuchsin, Gentianaviolett, Dahlia, Neutralrot, Scharlachrot, Toluidin blau Methylen blau, Trypaflavin, Marineblau, Hessische purpurine ノ 12 種ノ色素ハ結核菌並ニ非病原性抗酸性菌ノ發育ニ伴ヒテ褪色或ハ脱色セラル。Eosin, Anilinorange, Metanilyellow ノ 3 種ノ色素ハ變色或ハ脱色ヲ認メ得ズ。3) Neutralrot, Anilin orange, Hessische purpurine ノ 3 色素ニ發育シタル菌苔ハ比較的濃原液ニ於テノミ肉眼的ニ着色スルモ、顯微鏡的ニ觀察スレバ菌體ノ色素攝取狀ヲ認メ得ズ。4) Safranin, Rosanilin, Fuchsin, Gentianaviolett, Dahlia, Eosin, Trypaflavin, Metanil yellow, Scharlachrot, Toluidinblau, Marine blau, Methylen blau ノ 12 種ノ色素ニ於テハ、肉眼上著明ニ色素攝取ヲ營メル菌苔ヲ認メ、色素ノ濃度薄キニ比例シテ菌苔ノ色調モ淡調トナレリ。顯微鏡的ニハ、比較的濃厚液ニ發育シタル菌苔或ハ發育完全阻止ヲ蒙リタルモノニ在リテハ菌體及ビ顆粒染色著明ナル個々菌體ヲ識別スルヲ得タリ。5) Methylen blau Marine blau, Toluidin blau ノ 3 色素ニ在リテハ菌原形質内ニ著明ニ而モ均等ニ青紫或ハ濃青色ヲ攝取シ、顆粒ヲ染出セザル桿菌ヲ孤立性ニ認ム。是等色素攝取菌ハ稀薄ナル色素含量ニ於ケル無色菌塊中ニモ認メ得ルナリ。6) 色素加キルヒナー氏液體培養基ニ於テ表面培養ト深部培養トノ比較ヲ試ムルニ表面培養ニ於テハ深部培養ニ比シ、色素ニヨル發育阻止作用ヲ受クルコト弱ク、色素攝取力モ亦弱シ。7) 是等色素ノ發育阻止作用ハ Safranin, Trypaflavin, Toluidin blau 最モ強ク、Rosanilin, Metanilyellow, Marine blau, Neutralrot, Methylenblau, Gentianaviolett ノ順ニ弱シ。而シテ Dahlia, Eosin, Fuchsin, Hessische purpurine ト次第二ニ弱ク、Anilin orange, Scharlachrot 最モ弱シ。(大連、佐々抄)

#### 結核菌並ニ非病原性抗酸性菌ノ色素親和性ト細菌ノ生死ニ關スル實驗

#### 細菌ノ生體染色知見補遺(其ノ 2)

(福本清: 同誌、同號)

1) 余ノ使用セル 20 種ノ色素ヲ以テ結核菌並ニ非病原性抗酸性菌ヲ染色セルニ早キモノニ於テ 30 分以内、遅キモノニ於テモ 5 時間ニシテ完全ニ染色サル。染色時間 7 時間以内ニ於ケル被染色菌ノ發育ハ旺盛ニシテ、コノ時間内ニ於テハ菌死滅或ハ發育阻止ヲ蒙ルコトナシ。猶色素ニ依リテハ 24 時間、48 時間作用後ニ於テモ、被染色菌ガ發育能力ヲ有スル場合アリ。結核

菌は非病原性抗酸性菌ハ色素攝取ト雖モ、一定時間内ニ於テハ發育増殖能力ヲ有ス。2) 即チ本染色法ニヨツテ行ヘバ結核菌並ニ非病原抗酸性菌ハ生體染色可能ナリト云フヲ得ベク、培養基中ニ色素ヲ混和シタル場合發育阻止作用ヲ受ケ菌體が淡染、顆粒淡染セラレタルモノト雖モ猶一定期間ニ於テハ生活力ヲ保有スルモノト云フヲ得ベク、余が第 1 回報告ニ於テ懷疑タル疑問ノ解決シタルモノト信ズ。

(大連、佐々抄)

滿洲ニ於ケル各型結核菌ノ系統的研究

(廣木彦:吉 同誌、第 23 卷、第 4 號、昭和 10 年 10 月)  
著者ハ表題ニ關シテ次ノ各論ニ分テ廣汎ナル詳細ナル研究ヲ爲シテ報告シタル。第 1 編、鳥型結核菌ノ研究。第 2 編、牛型結核菌ノ研究。第 3 編、滿蒙「ハタリス」ノ人型及牛型結核菌ニ對スル感受性ノ差ニ就テ。第 4 編、結核菌分離培養ノ際ニ得タル非病原性抗酸性菌ニ就テ。

(大連、佐々抄)

滿洲ニ於ケル小兒結核ノ臨牀的研究

第一編 統計的觀察

(山田義郎、田中守也、徐政剛:同誌、第 23 卷 4 號、昭和 10 年 10 月)

主トシテ滿大小兒科外來及入院患者、奉天某小學兒童ニ就テノ調査ニヨルモノテ、マ氏反應ニヨル結核感染率ハ從來ノ報告ト異ナリ。滿洲兒童ニテ特ニ内地ニ比シテ高率ナラズ。内地都市ノ夫レヨリムシロ低率ナリト云フ。又結核發病者ノ數ハ年齡的ニハ大差ナキモ發病期ニ入ツテ激減スル、病型ハ年齡ニヨリ異リ幼兒期及小兒期ヲ通シ肋膜炎、浸潤及ヒ肺門竝ニ氣管枝腺結核ノ 3 者ガ約 80%ヲ占メ、發病前期及ヒ發病期ニ於テモ是等ノ關係ハ略シ同様ナルガ如ク、成書記載ノ如キ成人型肺結核ノ増加ハ特ニコレヲ認メナイ。乳兒期ニ於テハ寧ロ粟粒結核、腦膜炎ガ主位ヲ占メ又浸潤トシテハ基結核(Epituberkulose)ノ如キ廣汎ニ互ルモノ及ヒ乾酪化ノ傾向ガ後年ニ比シテ多イト云々ト結論シタル。尙滿洲兒童ノ結核死亡率ガ内地ヨリ大テアルノハ、内地ノ死亡統計ノ取り方ニ過誤ガアルタメテ、著者等ハ彼我ニ於テ大ナル相違ハ無イモノテアロウト附言シテキル。

(大連、佐々抄)

會報並雜報

○昭和十年十二月中新入會者

- |        |                      |                      |
|--------|----------------------|----------------------|
| 後藤 巖   | 千葉市市場一五五             | 支那療養所海濱院             |
| 河越 重隆  | 東京市中野區江古田東京市療養所醫局    | 京都帝國大學醫學部外科教室        |
| 竹林 重郎  | 三重縣松坂市魚町一丁目          | 愛媛縣新居郡角野村住友病院山根分院内科  |
| 山田 正次  | 東京市牛込區戸山町陸軍軍醫學校防疫學教室 | 奉天市鐵路總局鐵路學院醫務室       |
| 竹内 三喜  | 鹿兒島市鴨池日本赤十字社鹿兒島      | 福岡縣八幡市西高樓竹下町三丁目伊藤染造方 |
| 奥村 吉文  |                      |                      |
| 柴 矢 貞雄 |                      |                      |
| 大平 武雄  |                      |                      |
| 林 與 吉郎 |                      |                      |

○會員ノ計

左記會員ノ計報ニ接ス謹テ弔意ヲ表ス

西 盛之進

第 13 卷第 7 號一第 11 號 長井盛至論文正誤表

號	報	頁	側	行	誤	正
7 號	2 報	576 頁	左側	20 行目	濃厚食好ノミ淡白食好	濃厚食好ノ淡白食好
”	”	579 頁	左側	1—2 行目	與フルクトノ	與ヘテ